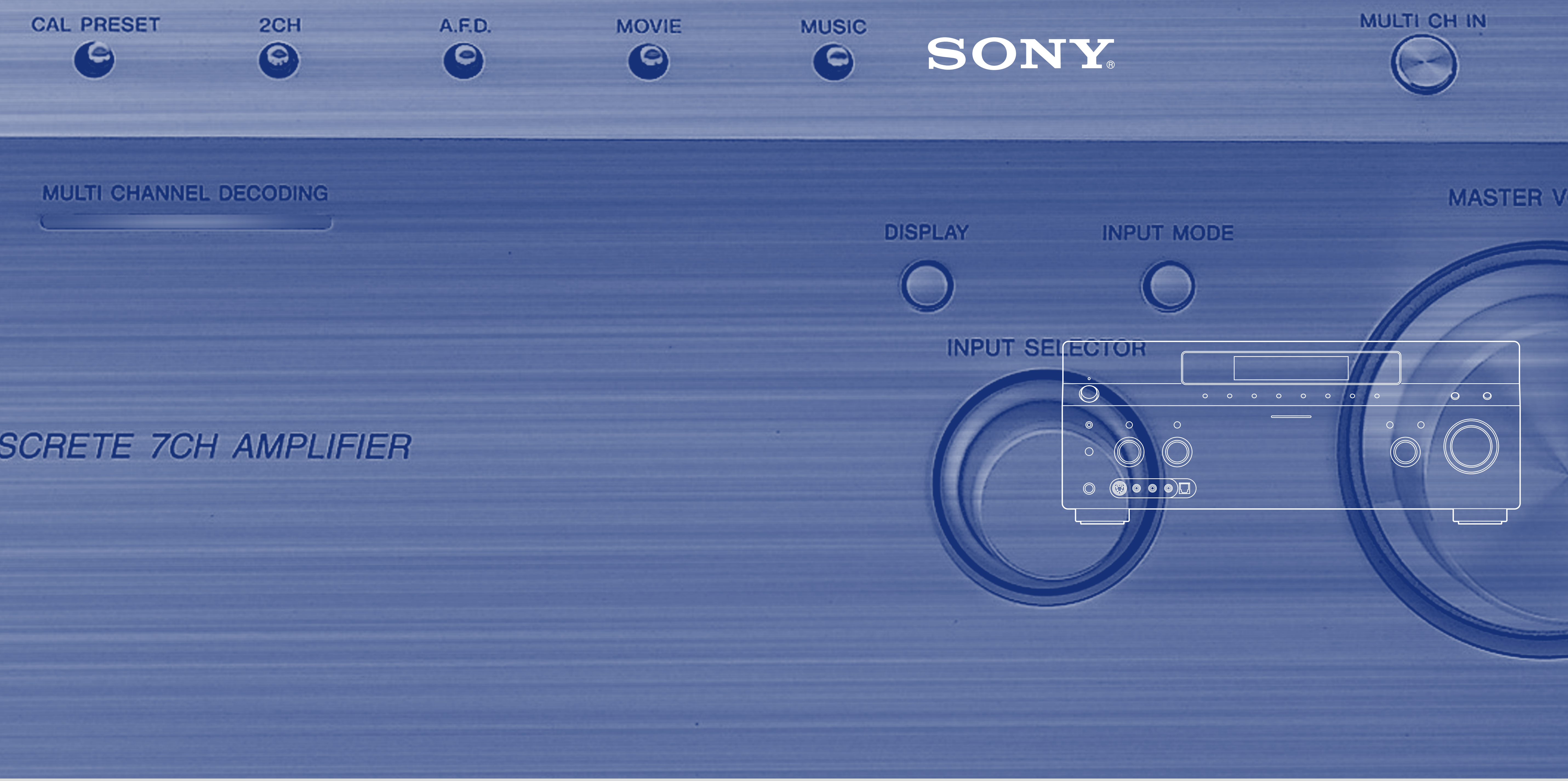
SONY

2-681-806-05(1)



マルチチャンネル
インテグレートアンプ

TA-DA3200ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。 http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

2681806O5 (1)

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。
リモコンのON SCREENを押すと、本機のMONITOR OUT端子につないだテレビに、メニューの設定画面が表示されます。

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS **（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** Digital Theater Systems, Inc からの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-ES、Neo:6 および DTS 96/24 は Digital Theater Systems, Inc の商標です。

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

目次

接続と準備

再生する

アンプを操作する

サラウンド効果を楽しむ

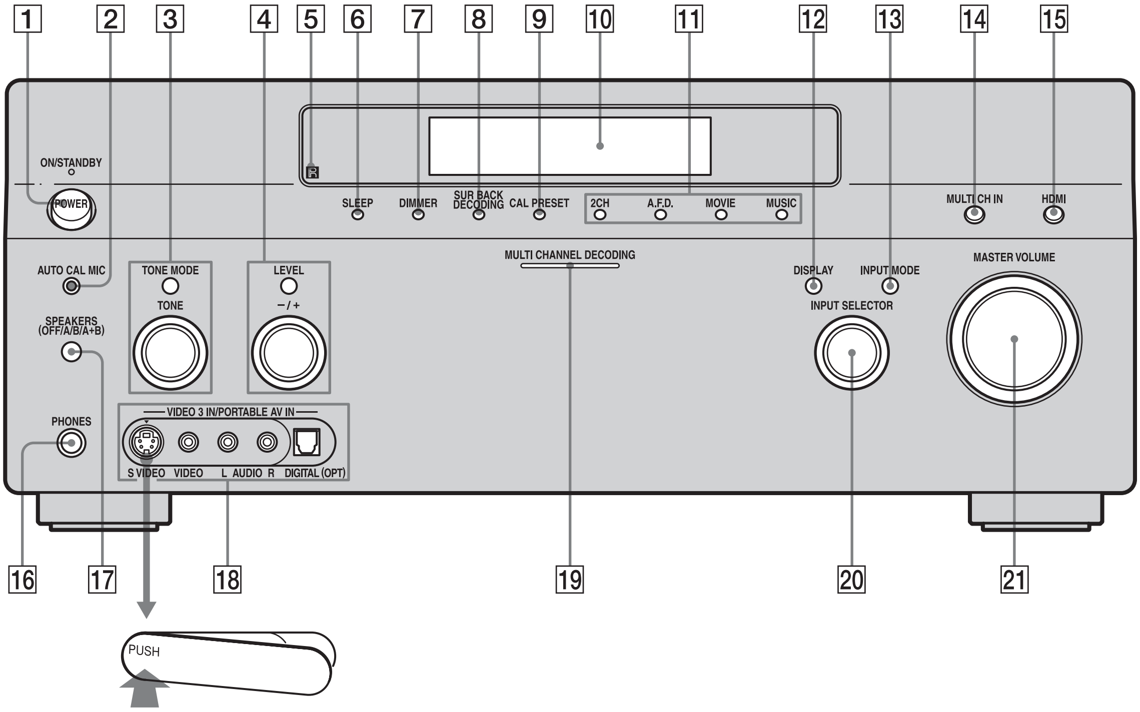
その他の操作をする

リモコンを設定して使う

その他

各部の名前と働き

本体前面



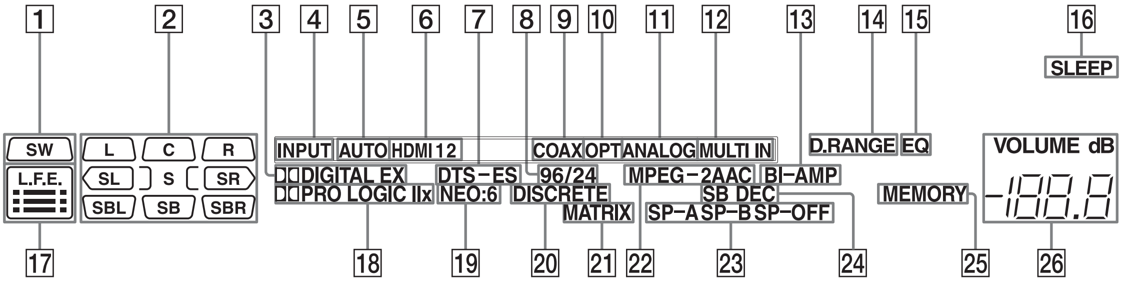
カバーをはずすには

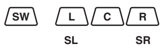
PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。

名称	働き
1 POWER（電源）	本機（アンプ）の電源を入/切します（29、39、40、41、42、64ページ）。
2 AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能で使用するマイクをつなぎます（32ページ）。
3 TONE MODE TONEつまみ	フロントスピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してレベルを調節します（47ページ）。
4 LEVEL +/−つまみ	LEVELをくり返し押して、Level Settingsメニューを選びます。続けて+/−つまみを回してレベルを調節します（46ページ）。
5 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
6 SLEEP	スリープタイマーを設定します（71ページ）。
7 DIMMER	表示窓の明るさを切り換えます。

名称	働き
8 SUR BACK DECODING	サラウンドバック音声デコードの設定を切り換えます（49ページ）。
9 CAL PRESET	保存した自動音場補正機能の設定を選びます（32ページ）。
10 表示窓	プログラムの名称や設定など、さまざまな情報を表示します（6ページ）。
11 2CH A.F.D. MOVIE MUSIC	サウンドフィールドを選びます（57ページ）。
12 DISPLAY	表示窓に表示される情報を切り換えます（71ページ）。
13 INPUT MODE	同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子につないでいる場合に、入力信号の優先順位を設定します（67ページ）。
14 MULTI CH IN	MULTI CHANNEL INPUT端子につながれている機器へ入力を切り換えます（38ページ）。
15 HDMI	HDMI接続されている外部機器の入力を選びます（38ページ）。
16 PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます（60ページ）。
17 SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）	フロントスピーカーのA、B、A+B、OFFを切り換えます（32ページ）。
18 VIDEO 3 IN/PORTABLE AV IN端子	ビデオカメラやテレビゲーム機などのポータブルオーディオ/映像機器をつなぎます（25、41ページ）。
19 MULTI CHANNEL DECODINGランプ	マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します（40ページ）。
20 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます（38、39、40、41、42、66、67、72ページ）。
21 MASTER VOLUMEつまみ	本機（アンプ）の音量を調節します（38、39、40、41、42ページ）。

表示窓に点灯する項目と働き



名称	働き
1 SW	サブウーファーの設定が「YES」になっていて、音声信号がSUB WOOFER端子から出力されているとき（52ページ）に点灯します。この表示が点灯しているときは、入力信号のL.F.E.信号またはスピーカーの低域成分をもとに、サブウーファーから音声を出力しています。
2 **再生チャンネル表示**	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分） 例: 記録形式（フロント/サラウンド）：3/2.1 再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 
3 DIGITAL (EX)	ドルビーデジタルサラウンド信号をデコードしているときに点灯します。ドルビー EXデコードしているときに「EX」も点灯します。 ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「ANALOG」になっていないことを確認してください（67ページ）。
4 INPUT	現在の入力ランプとともに常に点灯します。
5 AUTO	INPUT MODEが「AUTO」に設定されているときに点灯します（67ページ）。
6 HDMI 1 2	HDMI機器を認識しているときに点灯します（19ページ）。
7 DTS(-ES)	DTS信号をデコードしているときに点灯します。DTS-ESデコードしているときに「-ES」も点灯します。 DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「ANALOG」になっていないことを確認してください（67ページ）。
8 96/24	DTS 96kHz/24bit信号をデコードしているときに点灯します。
9 COAX	INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「COAX」に設定されているときに点灯します（67ページ）。
10 OPT	INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「OPT」に設定されているときに点灯します（67ページ）。

名称	働き
11 ANALOG	INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、COAXIALまたはOPTICAL端子に信号が入力されていないとき、またはINPUT MODEが「ANALOG」に設定されているとき、またはアナログダイレクト機能を使用しているときに点灯します（67ページ）。
12 MULTI IN	MULTI INが選ばれているときに点灯します（38ページ）。
13 BI-AMP	SUR BACK SPを「BI-AMP」に設定しているときに点灯します（53ページ）。
14 D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（47ページ）。
15 EQ	イコライザーが働いているときに点灯します（47ページ）。
16 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します（71ページ）。
17 L.F.E.	入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、すべての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。
18 ◻◻PRO LOGIC (II/IIx)	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。また、プロロジックII またはプロロジックIIxのムービー /ミュージック/ゲームモード処理を行っているときにも点灯します（58ページ）。
19 NEO:6	DTS-ES Neo:6のシネマ/ミュージック処理を行っているときに点灯します（58ページ）。
20 DISCRETE	DTS-ES Discrete信号をデコードしているときに点灯します（49ページ）。
21 MATRIX	DTS-ES Matrix信号をデコードしているときに点灯します（49ページ）。
22 MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
23 SP-A/SP-B/SP-OFF	使用しているスピーカーシステムを表示します。「SP-OFF」はSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で「SP-OFF」を選んでいるとき、またはヘッドホンをつないでいるときに点灯します。

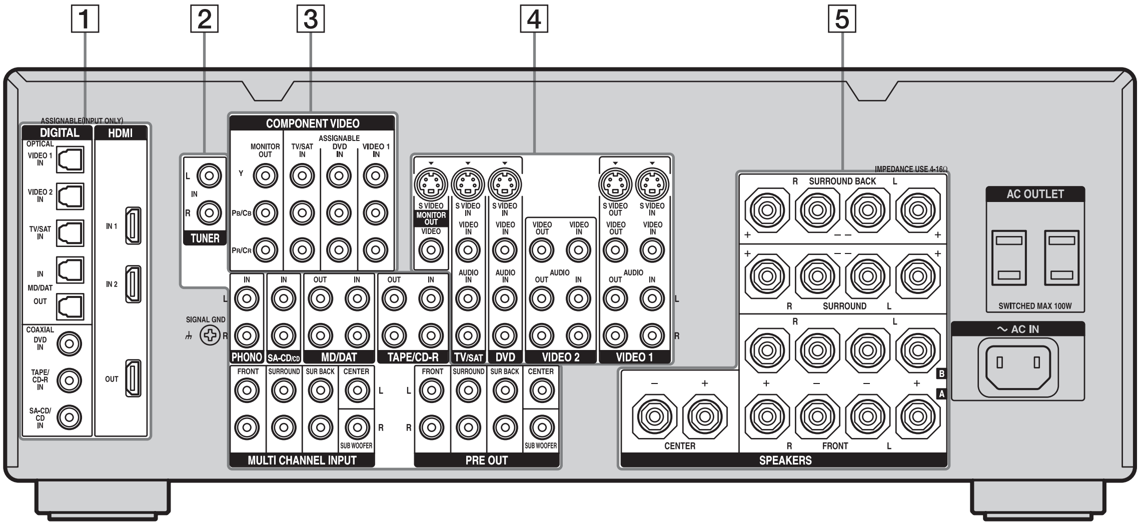
名称	働き
24 SB DEC	サラウンドバック音声のデコーディングが行われているときに点灯します（49ページ）。
25 MEMORY	Name Inputなどの、メモリー機能が働いたときに点灯します（66ページ）。
26 VOLUME	現在の音量を表示します。

ご注意

- MPEG-2 AAC は、アルゴリズム：（LC（Low Complexity））にのみ対応しています。
- ◻◻PRO LOGIC（II/IIx）は、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方が「NO」に設定されているときは点灯しません（53 ページ）。

つづく

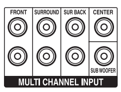
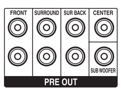
本体後面



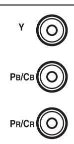
1 デジタル入出力部

	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます。COAXIALのほうがより高音質です（14、15ページ）。
	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子	DVDプレーヤー、チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（19ページ）。

2 音声入出力部

	音声入出力端子	カセットデッキ、MD/DATデッキなどをつなぎます（14、17ページ）。
	マルチチャンネル入力端子	7.1チャンネルや5.1チャンネルのアナログ音声出力端子を持っているスーパーオーディオCDプレーヤーやDVDプレーヤーをつなぎます（14、16ページ）。
	PRE OUT（プリアウト）出力端子	外部のパワーアンプなどとつなぎます。

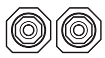
3 コンポーネント映像入出力部

	コンポーネント映像入出力端子*	DVDプレーヤー、テレビ、チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（21、22、24ページ）。

4 映像と音声の入出力部

	音声入出力端子	ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（22、24、25ページ）。
	映像入出力端子*	
	S映像入出力端子*	

5 スピーカー出力部

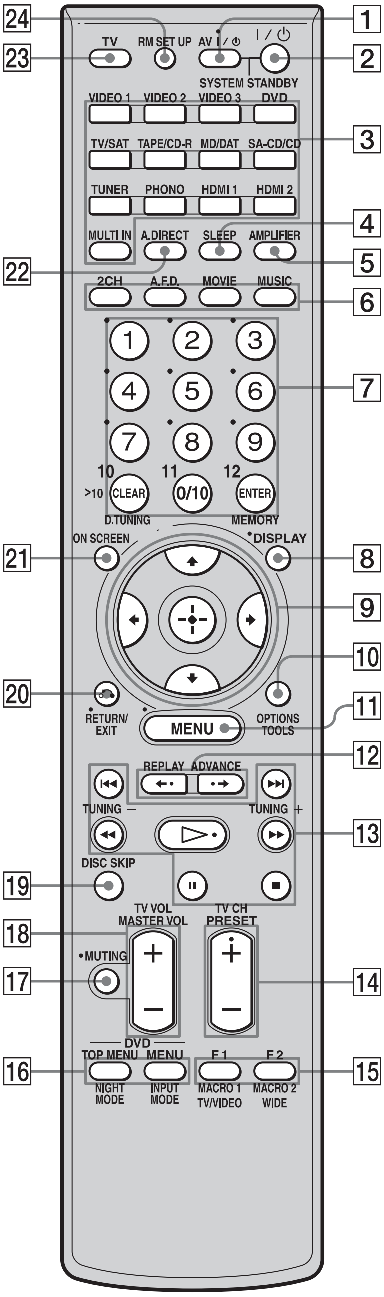
		スピーカーをつなぎます（13ページ）。

* お手持ちのテレビを MONITOR OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（21 ページ）。また、ON SCREEN を押したとき、メニューの設定やサウンドフィールドを表示できます（65 ページ）。

リモコン

付属のリモコン（RM-AAL007）を使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（75ページ）。

リモコン（RM-AAL007）



リモコンのボタン	機能
1 AV I/⏻（電源オン/スタンバイ）	リモコンに登録されている機器の電源を入/切します（75ページ）。I/⏻（2）と同時に押すと、本体と、他のソニー製オーディオ/映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。
2 I/⏻（電源オン/スタンバイ）	本体の電源を入/切します。すべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV I/⏻（1）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
3 入力切り換え用ボタン	使用する機器を選びます。入力切り換え用のボタンを押すと、本体の電源が入ります。工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています（38ページ）。リモコンに登録すると、他社製の機器を操作することもできます。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（75ページ）をご覧ください。
4 SLEEP	スリープタイマーを使って本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（71ページ）。
5 AMPLIFIER	本体の操作を有効にします（43ページ）。
6 2CH	サウンドフィールドを選びます（57ページ）。
A.F.D.	
MOVIE	
MUSIC	

ご注意

- 機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- AV I/⏻の機能は、入力切り換え用のボタン（3）を押すたびに自動的に切り換わります。

つづく

リモコンのボタン	機能
7 数字ボタン	CDプレーヤーやDVDプレーヤー、MDデッキのトラックを選びます。トラック番号10を選ぶときは、0/10を押します。 また、ビデオデッキや衛星放送チューナーのチャンネルを選びます。テレビのチャンネルを選ぶときは、TV（23）を押したあとに、数字ボタンを押します。 FM/AMチューナーのプリセット番号や、周波数の入力ができます。
ENTER	数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選んだあとに、押して決定します。
MEMORY	TUNER（3）を選んでいるときに使います。プリセット操作に使います。
CLEAR	数字ボタンを間違えて押したときに、取り消すことができます。 また、衛星放送チューナーやDVDプレーヤーを連続再生などに戻します。
D.TUNING	放送局を手動受信するモードにします。
> 10	ビデオデッキ、衛星放送チューナー、CDプレーヤー、MDデッキの11以上の番号のトラックを選びます。また、デジタルCATVチューナーのチャンネルを選びます。
8 DISPLAY	表示窓やビデオデッキ、衛星放送チューナー、CDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキのテレビ画面に表示される情報を切り換えます（71ページ）。
9 ⊕ ↑/↓/←/→	MENU（11）またはTOP MENU（16）を押したあと、↑/↓/←/→を押して設定を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
10 OPTIONS TOOLS	DVDプレーヤーなどのオプションメニューを表示、選択します。
11 MENU	本機やDVDプレーヤー、テレビなどのメニューを表示します。
12 REPLAY ←·/ ADVANCE ·→	ビデオデッキやDVDプレーヤーで、前の場面を再生したり、現在の場面を早送りします。
13 ◀◀/▶▶[a] ■[a] ❚❚[a] ▷[b] ⏮/⏭[a]	DVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキなどを操作します。

リモコンのボタン	機能
14 PRESET +[b]/– TV CH +[b]/–	TV（23）を押したあとはテレビのチャンネルが切り換わります。入力切り換え用ボタン（3）で選んでいる機器の、チャンネルなどの切り換えができます。詳しくは、「本機のリモコンで他機を操作する」（74ページ）をご覧ください。
15 F1/F2	TV（23）を押したあとF1またはF2を押して、操作する機器を選びます。 • ハードディスクレコーダー F1:HDD F2:DVD • DVD/VHSコンボプレーヤー F1:DVD F2:VHS
TV/VIDEO	TV/VIDEOとTV（23）を同時に押して入力信号を選びます（テレビ入力またはビデオ入力）。
WIDE	ワイド画面モードを選びます。
MACRO1、 MACRO2	AMPLIFIER（5）を押したあとMACRO1またはMACRO2を押してマクロ機能を設定します（77ページ）。
16 TOP MENU	DVDのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います。
MENU	DVDのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います。
NIGHT MODE	AMPLIFIER（5）を押したあとNIGHT MODEを押して、NIGHT MODE機能を有効にします（62ページ）。
INPUT MODE	同じ機器をデジタル端子とアナログ端子の両方につないでいるときに、AMPLIFIER（5）を押したあとINPUT MODEを押してインプットモードを選びます（67ページ）。
17 MUTING	消音機能を有効にします（38ページ）。
18 MASTER VOL +/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（38ページ）。
TV VOL +/–	TV（23）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。
19 DISC SKIP	マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。

リモコンのボタン	機能
20 RETURN/EXIT ↶	ビデオデッキやDVDプレーヤー、衛星放送チューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を抜けるときに押します。
21 ON SCREEN	本機の状態を表示します。MENU（16）を押すと、メニューを表示します。
22 A.DIRECT	選んだ入力の音声を、調整を加えないアナログの信号に切り換えます（61ページ）。
23 TV	テレビの操作を有効にします。
24 RM SET UP	リモコンを設定します。

a) 各機器を操作できるその他のボタンについては、74 ページの表をご覧ください。

b) ▷、PRESET + ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

接続と準備

準備1：スピーカーを設置する

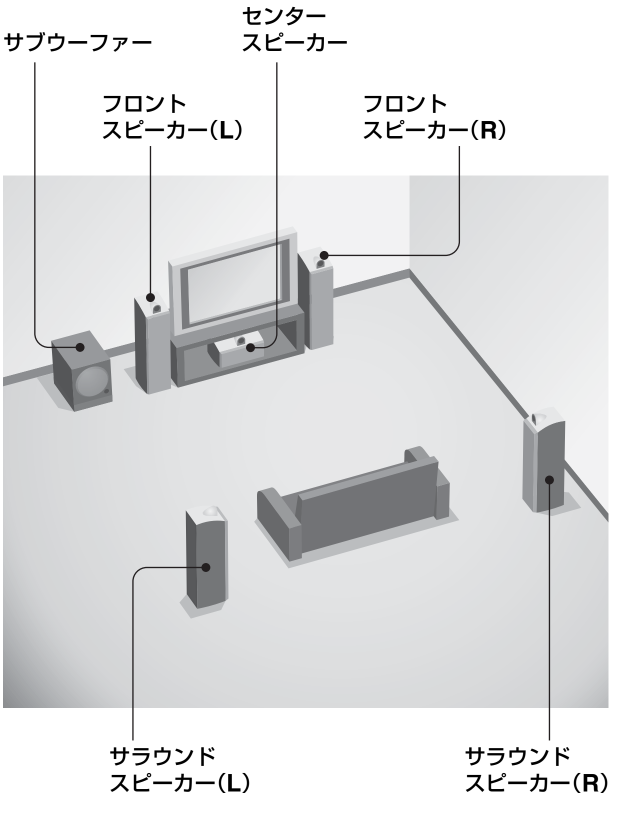
本機では最大7.1チャンネル（スピーカー 7本とサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

5.1/7.1チャンネルで楽しむ

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、
- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- サブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

5.1チャンネルの設置例

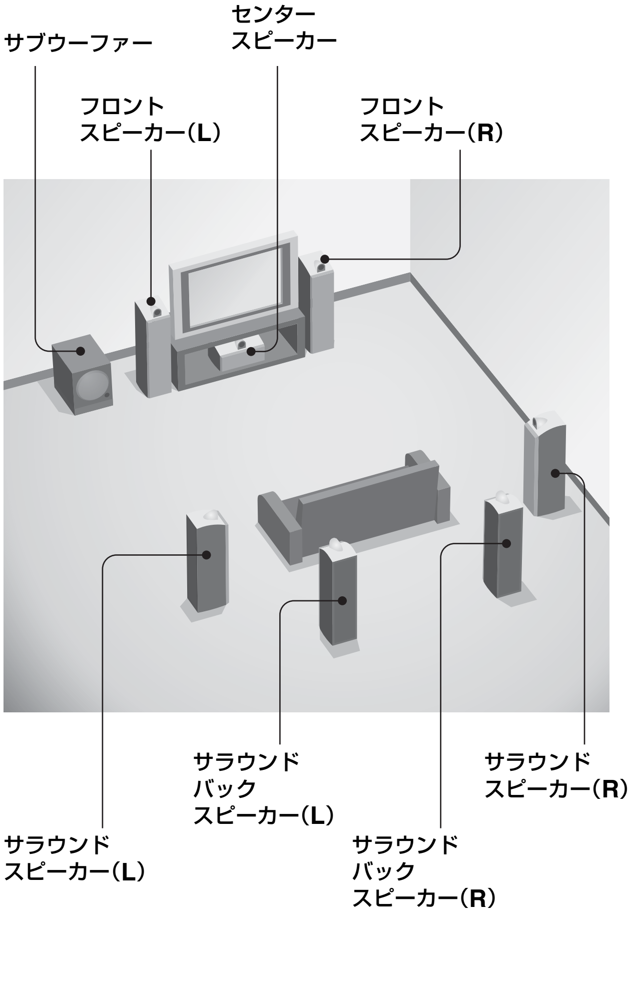


5.1チャンネルにさらに
- サラウンドバックスピーカー：1本（6.1チャンネル）

または
- サラウンドバックスピーカー：2本（7.1チャンネル）

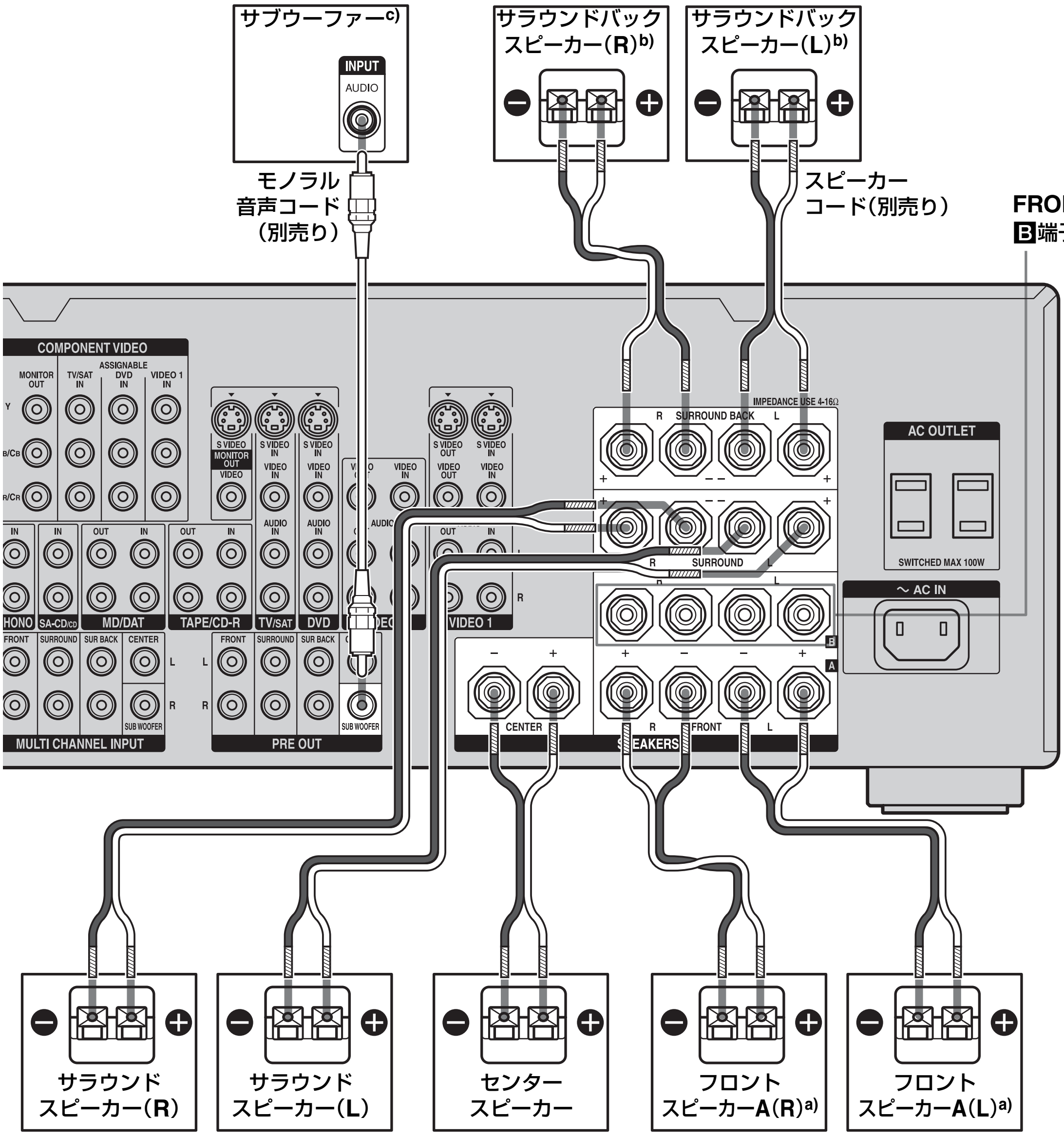
を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります（「ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる」（49ページ））。

7.1チャンネルの設置例



ちょっと一言
- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

準備 2:スピーカーを接続する



a) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT SPEAKERS **B** 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で選べます（32 ページ）。

b) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L 端子につないでください。

c) オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

ご注意

すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、System Settings メニューの SP IMPEDANCE を「8 ohm」に設定してください。それ以外の場合は「4 ohm」に設定してください。詳しくは「準備 5：スピーカーを設定する」（31 ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

別のパワーアンプにつないでいるスピーカーに出力するためには、PRE OUT 端子を使用してください。SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方から同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。

準備 3a：オーディオ機器を接続する

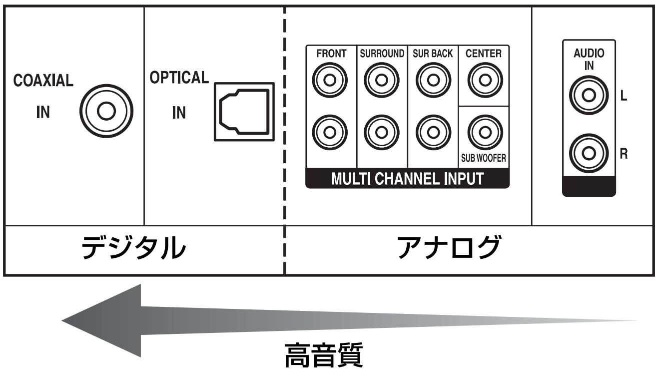
お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	デジタル音声出力端子付き	15ページ
		マルチチャンネル音声出力端子付き	16ページ
		アナログ音声出力端子付き	17ページ
	MD/DATデッキ	デジタル音声出力端子付き	15ページ
		アナログ音声出力端子付き	17ページ
	カセットデッキ、レコードプレーヤー、チューナー		17ページ

接続する音声端子について

音声信号は下の図のような順によい音質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。

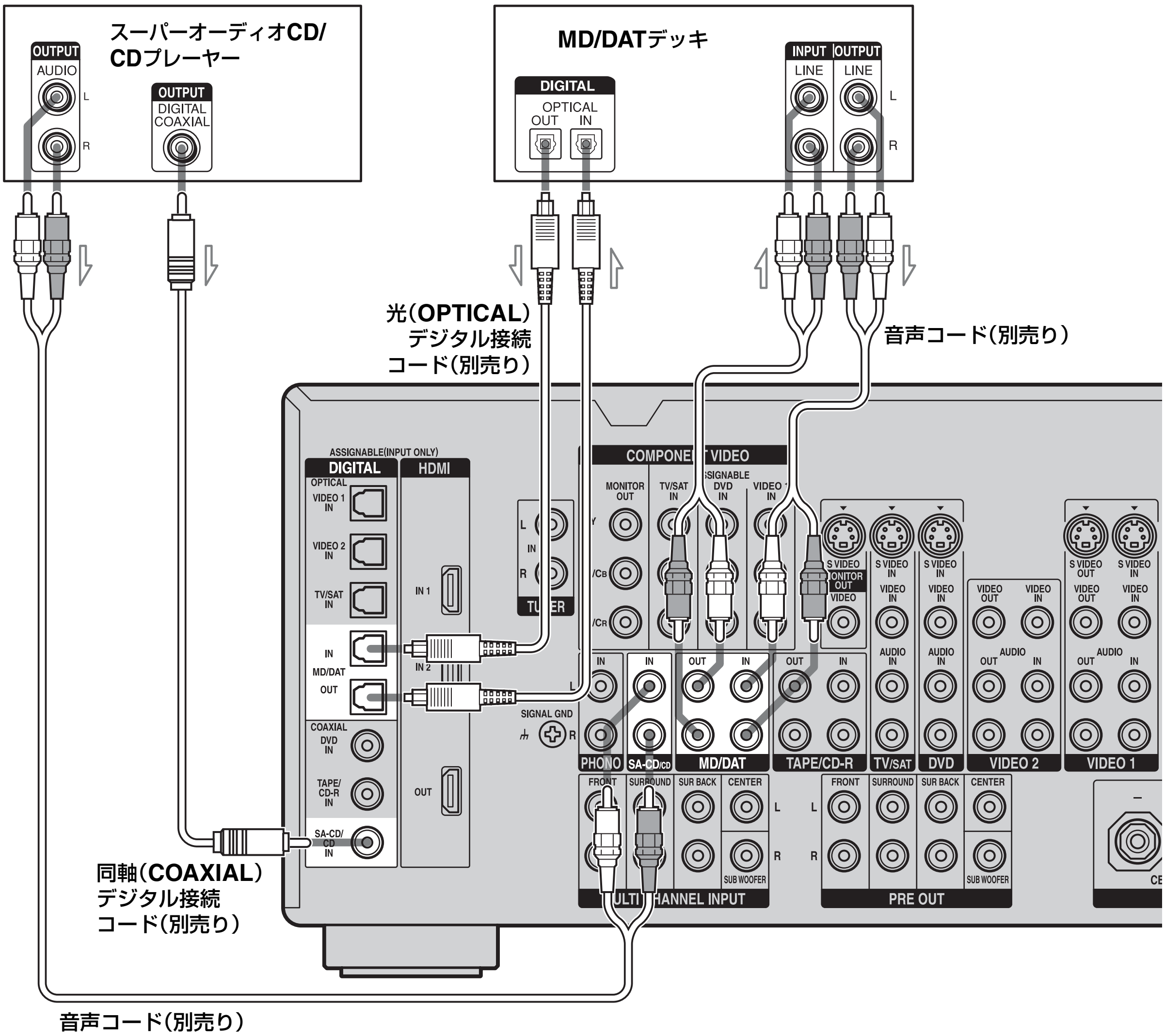


ご注意
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言
本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

デジタル音声出力端子のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMD/DATデッキの接続例です。



スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

- 本機のCOAXIAL SA-CD/CD IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、プレーヤーのOPTICAL端子とCOAXIAL端子からは信号は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CHANNEL INPUTまたはSA-CD/CD IN端子につないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声はデジタル録音できません。アナログ接続してください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

複数のデジタル機器を同時に接続したいときに、空いている入力端子がない場合は

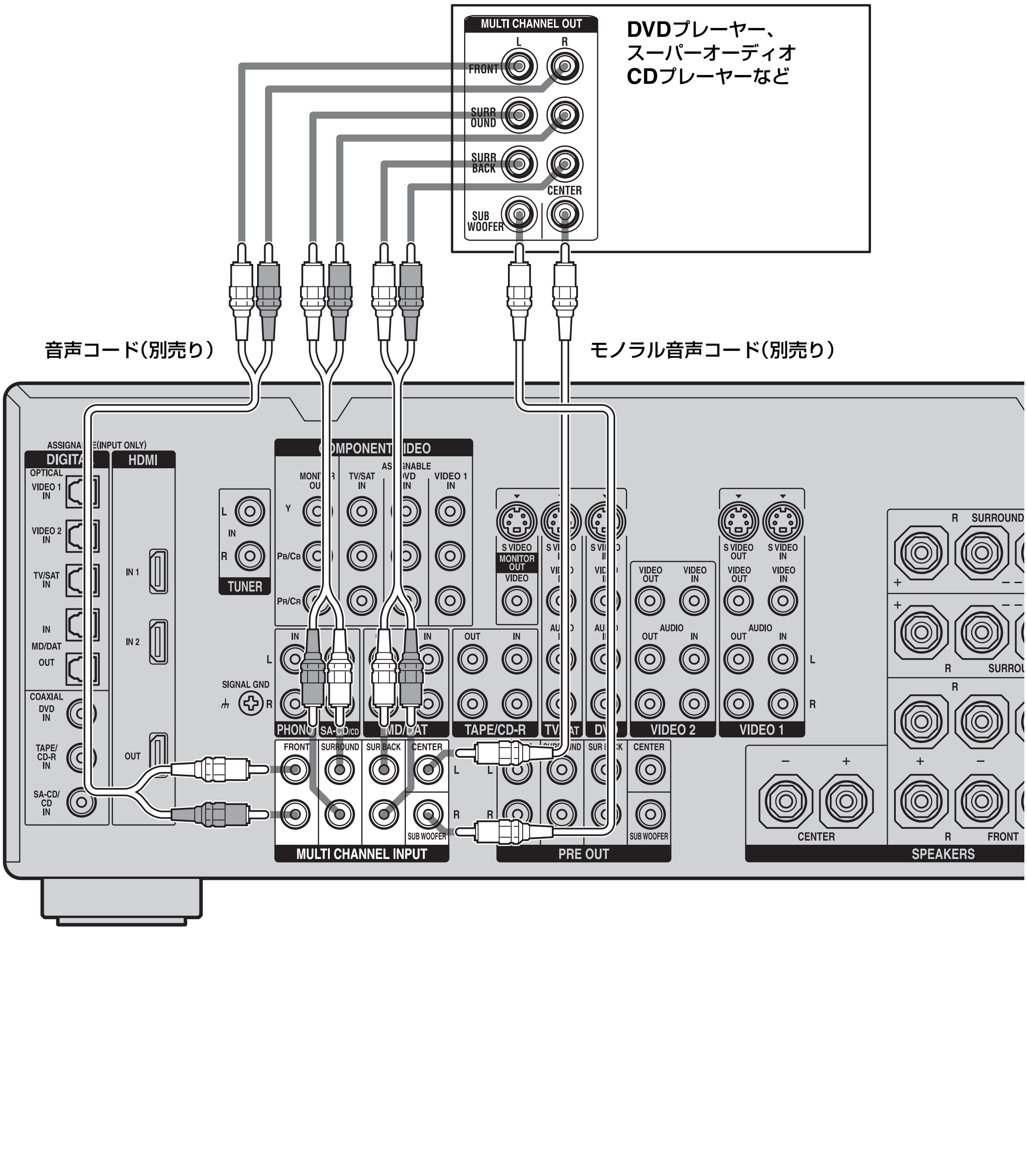
「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（68ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

LD プレーヤーの DOLBY DIGITAL RF OUT 端子を本機のデジタル入力端子に直接つなぐことはできません。RF 復調器が必要です。

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お手持ちのDVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにマルチチャンネル入力端子を使用することもできます。

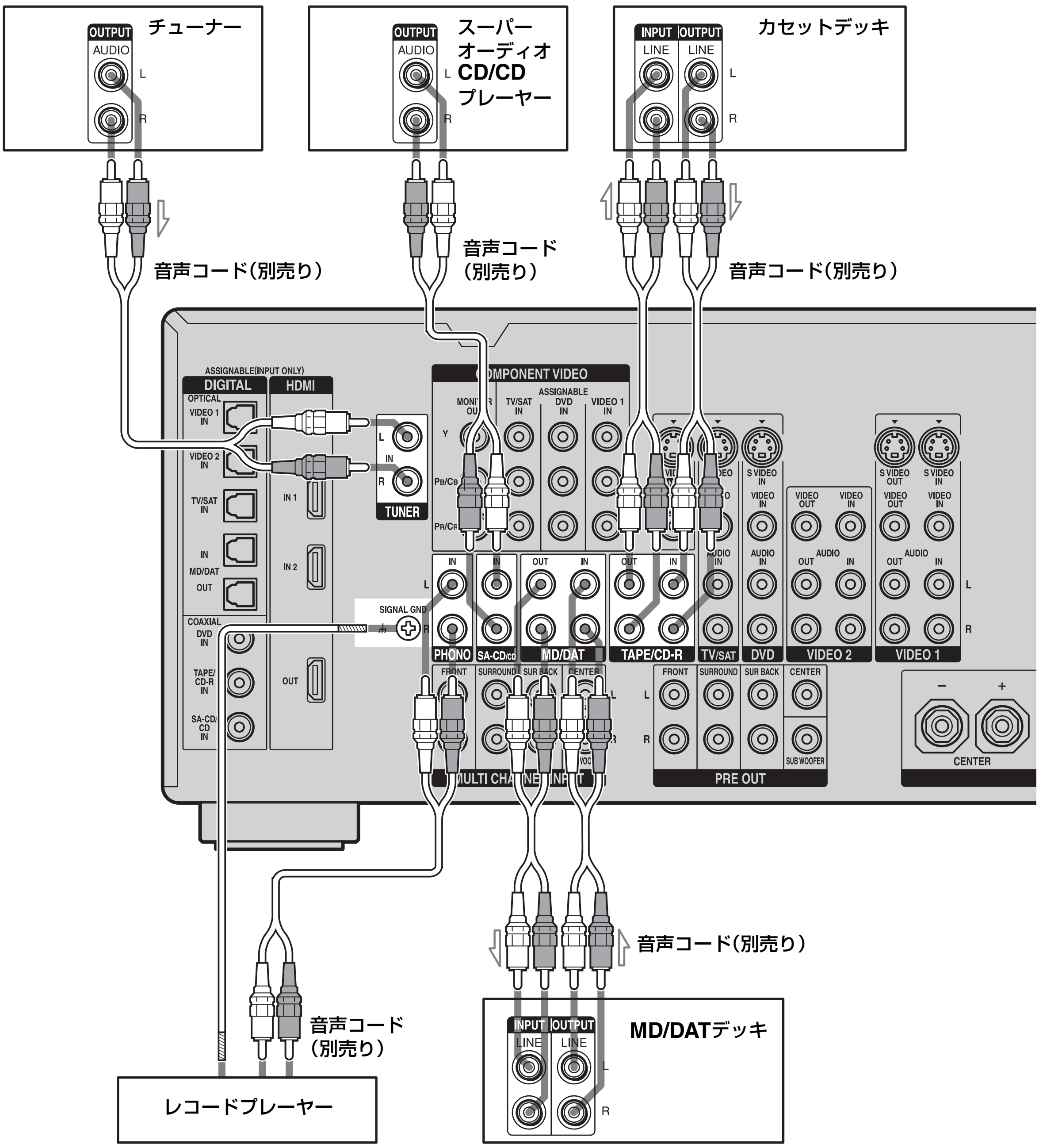


ご注意

DVD プレーヤーとスーパーオーディオ CD プレーヤーには SURROUND BACK 端子はありません。

アナログ音声出力端子のある機器

カセットデッキやレコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。



ご注意

お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。

準備 3b：映像機器を接続する

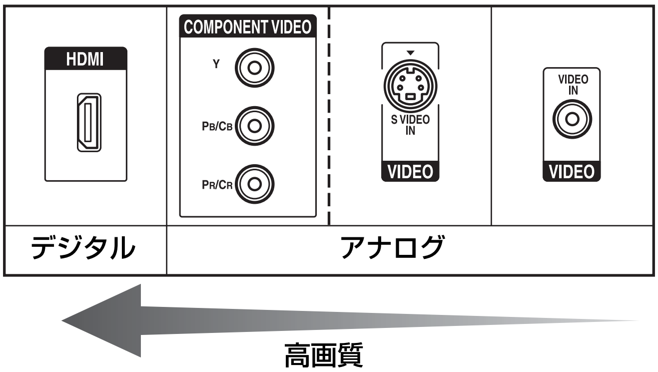
お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	テレビ	21ページ
	DVDプレーヤー、DVDレコーダー	22〜23ページ
	BSデジタル/デジタルCSチューナー	24ページ
	HDMI端子のある機器	19ページ
	ビデオデッキ	25ページ
	ビデオカメラ、テレビゲームなど	25ページ

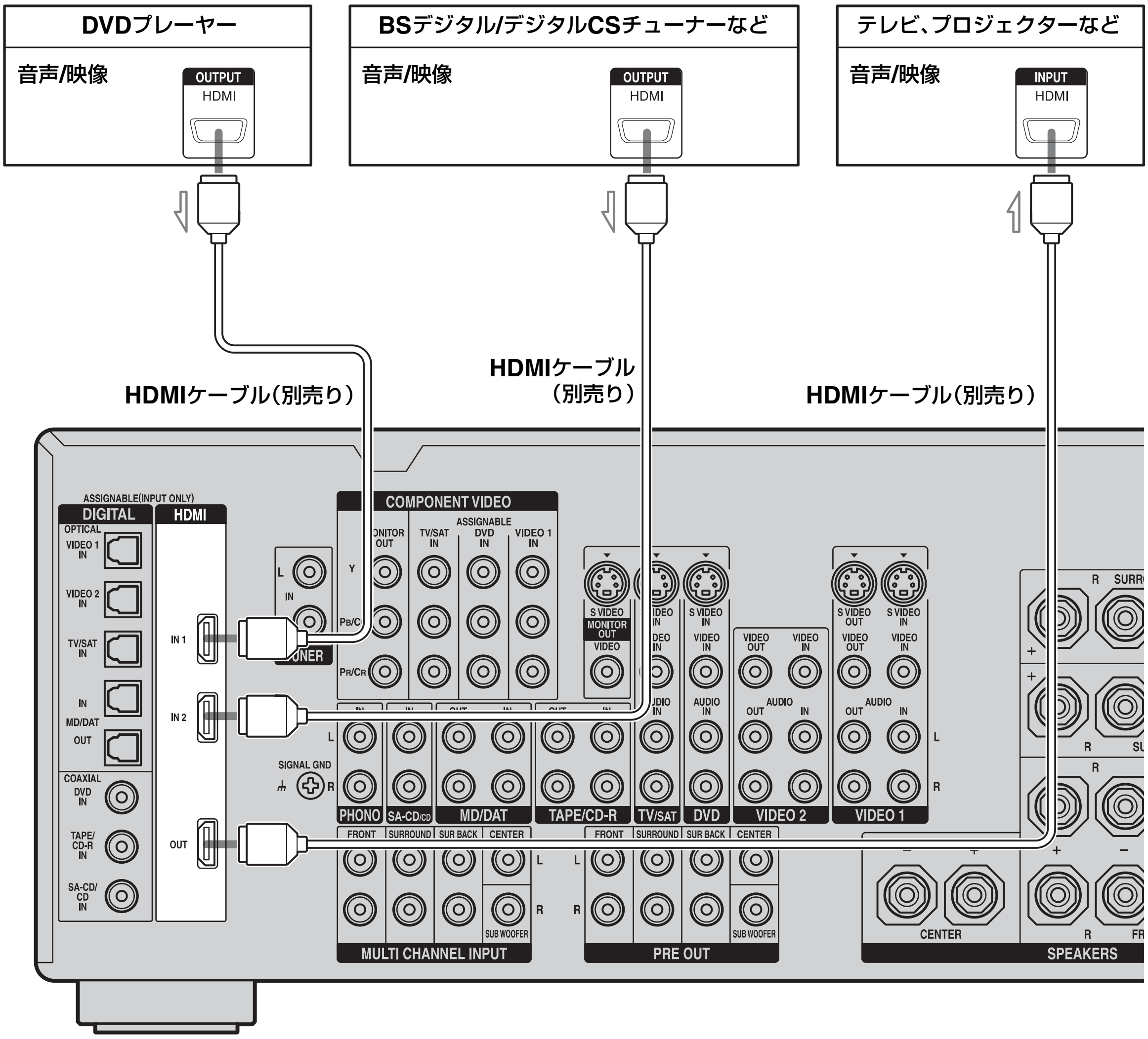
接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。



つづく

HDMI接続でできること

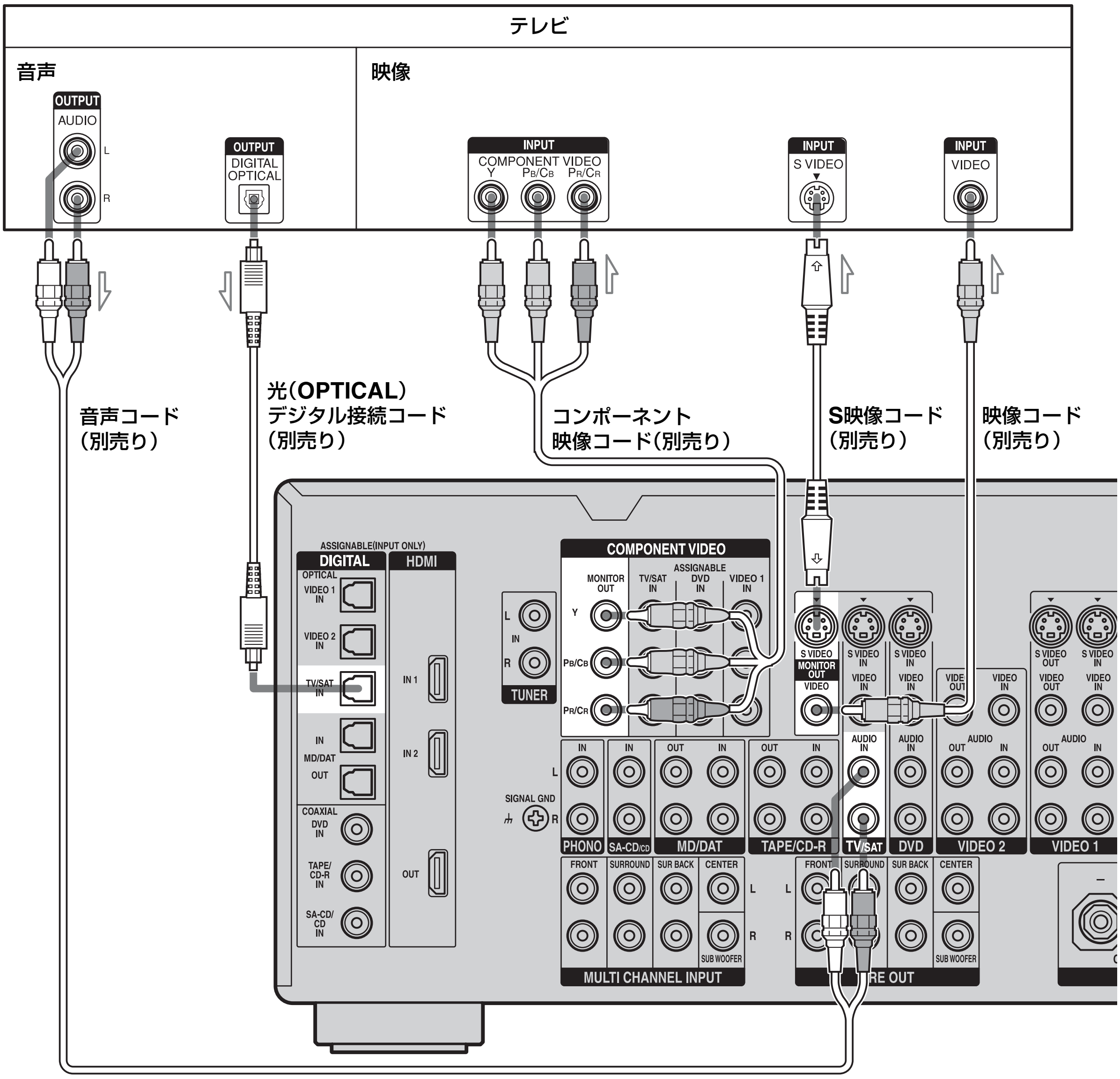
- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- 映像端子、S映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMIから出力されません。

HDMI端子の接続のご注意

- HDMIケーブルはソニー製、もしくはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力、HDMI OUT端子、PRE OUT端子から出力されます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子、S VIDEO OUT端子とMONITOR OUT端子からは出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、Video Settingsメニューの「HDMI AUDIO」を「TV+AMP」に設定してください（51ページ）。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。またマルチチャンネルのソフトを再生できません。
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数が切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、Video SettingsメニューのHDMI VIDEO ASSIGNの設定を行ってください（69ページ）。

テレビを接続する

本機につないだ映像機器の映像や、本機のメニューの設定画面を見ることができます。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



ご注意
- MONITOR OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- 再生機器の映像と音声が本機からテレビに出力されている場合は、本機の電源を入れてください。本機の電源が入っていないと、映像も音声も送信されません。
- テレビのアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。

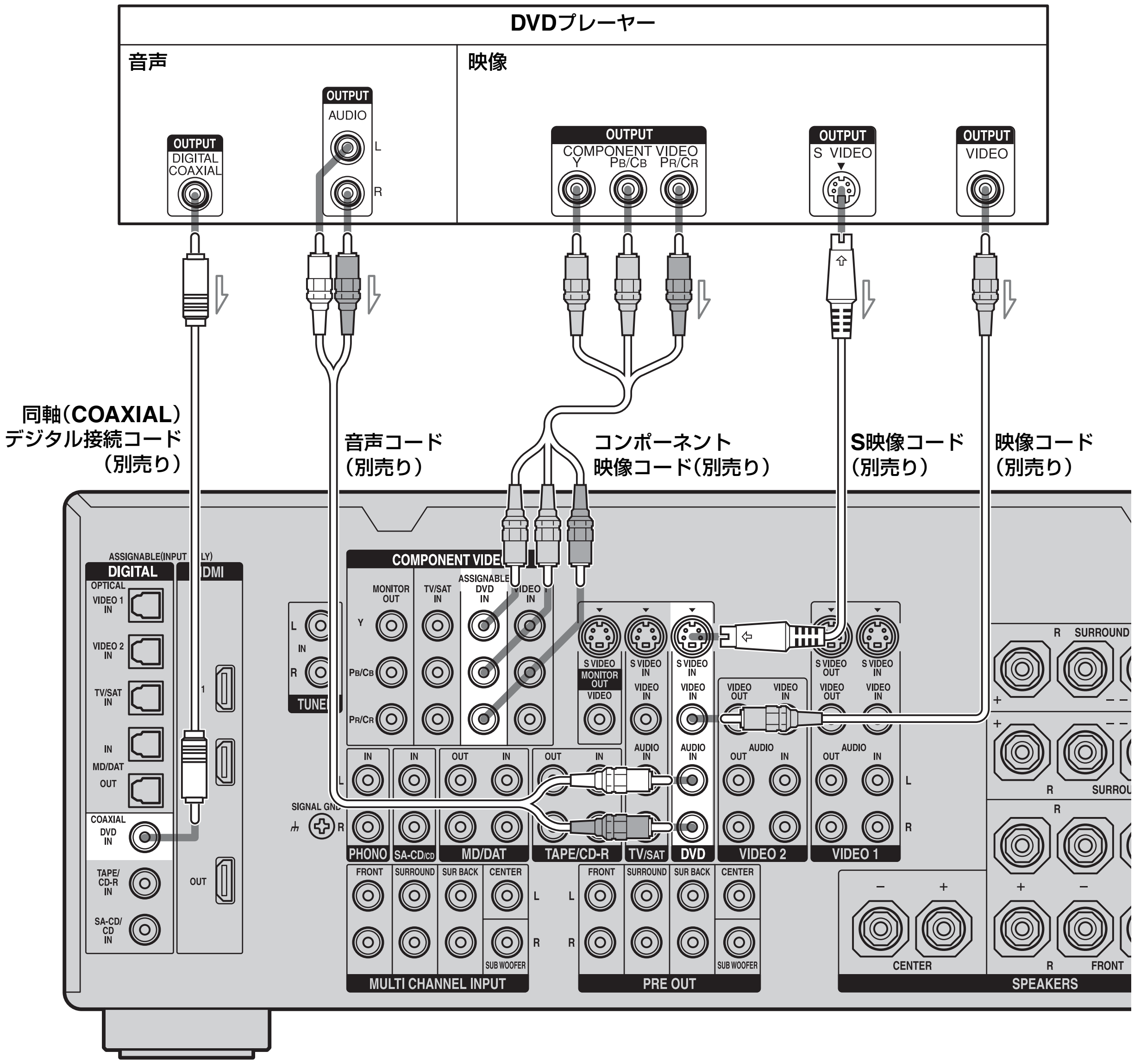
ちょっと一言
- 本機は映像機器の変換機能を持っています。詳しくは、「映像信号の変換機能について」（26 ページ）をご覧ください。
- テレビに MONITOR OUT 端子をつなぐと、選択された入力映像を見ることができます。さらに、ON SCREEN を押すと、メニュー設定やサウンドフィールドを表示することができます（65 ページ）。
- テレビの音声出力端子を本機の TV/SAT AUDIO IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機で聞けます。このとき、テレビの音声出力端子が可変 / 固定切り換えの場合には、固定にします。別売りの BS チューナーなどをつなぐ場合は、音声・映像端子ともに本機につないでください（24 ページ）。

つづく

DVDプレーヤー /DVDレコーダーを接続する

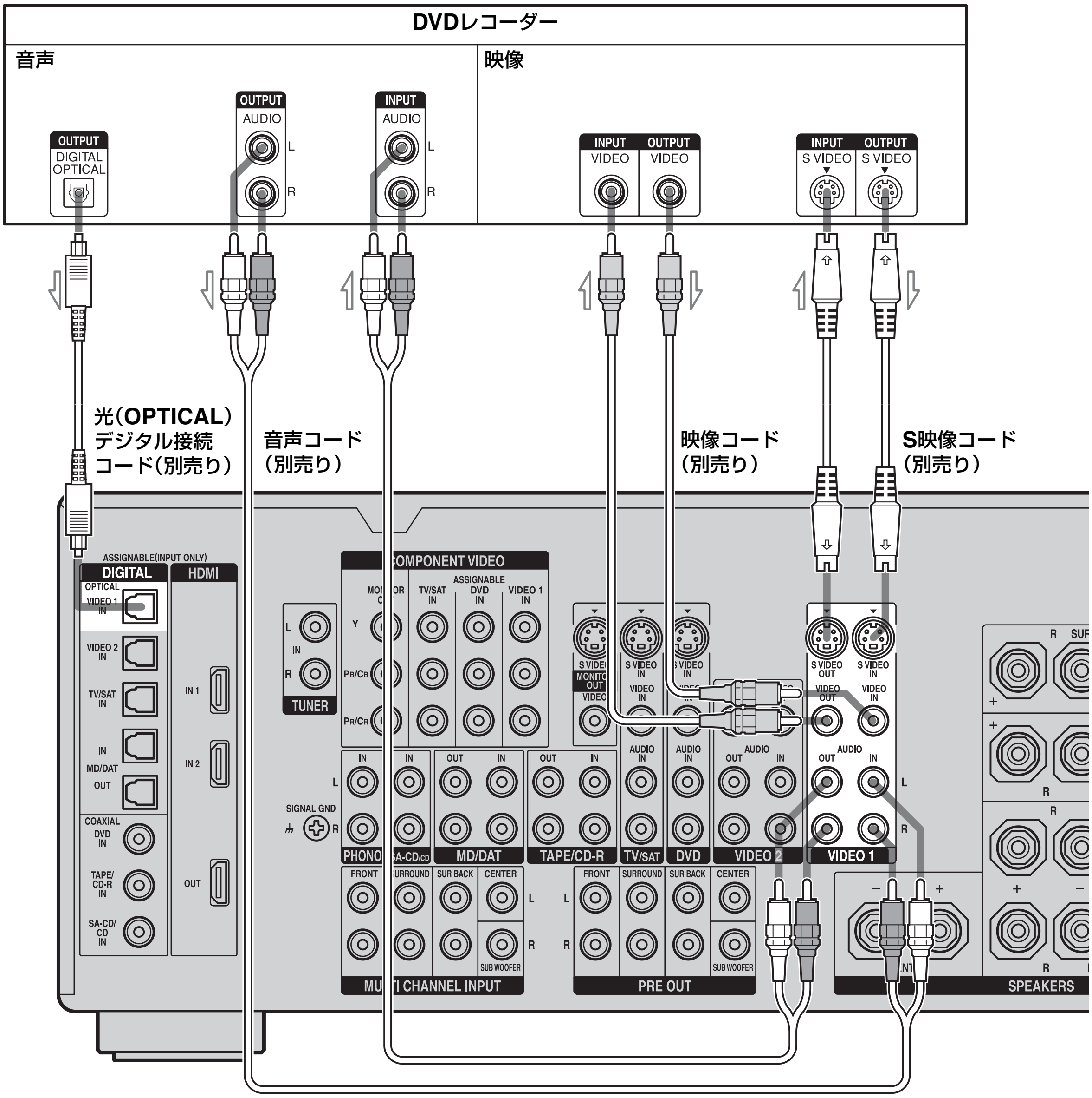
DVDプレーヤー /DVDレコーダーの接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

DVDプレーヤーを接続する



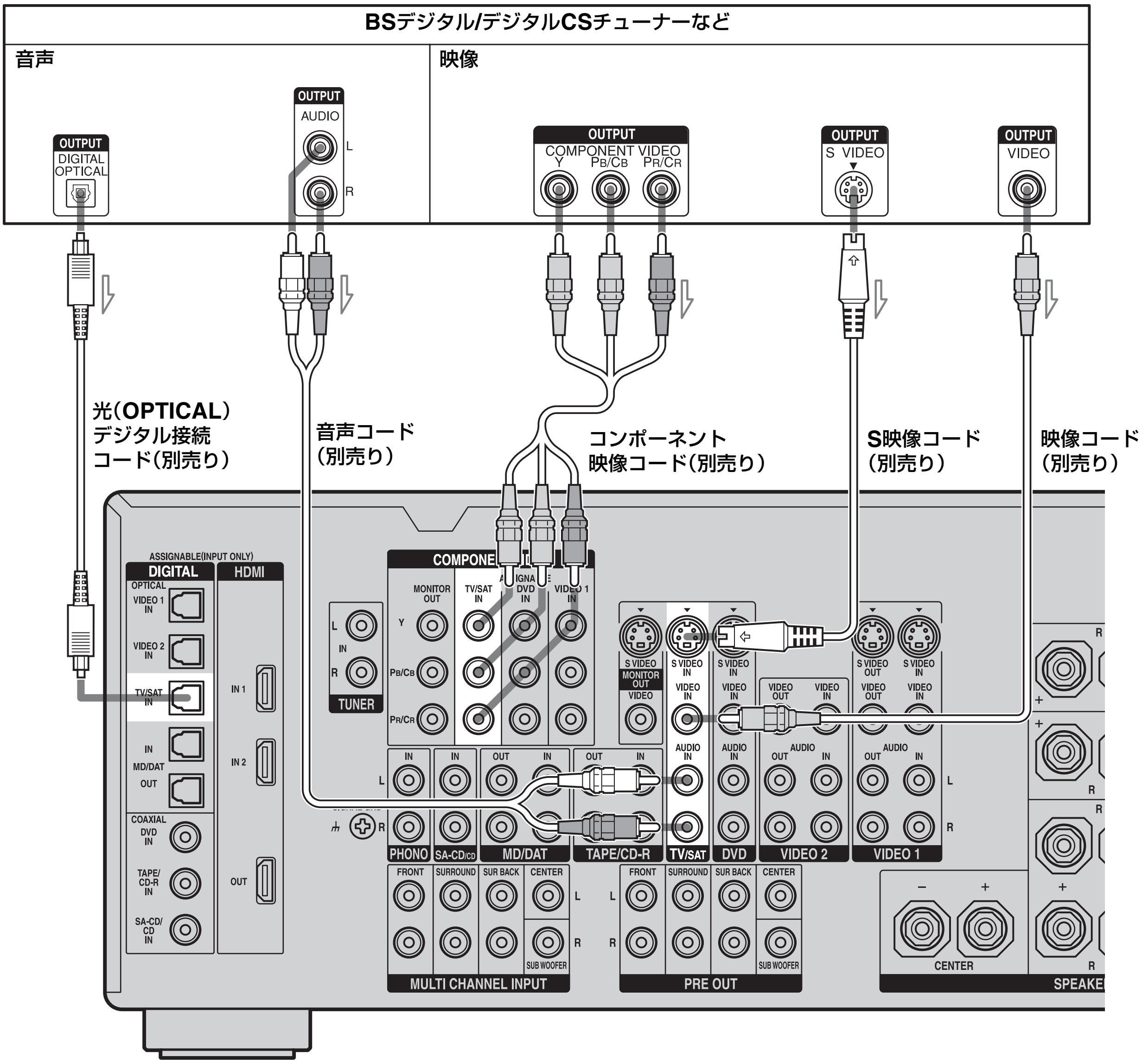
ご注意
マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVD プレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

DVDレコーダーを接続する



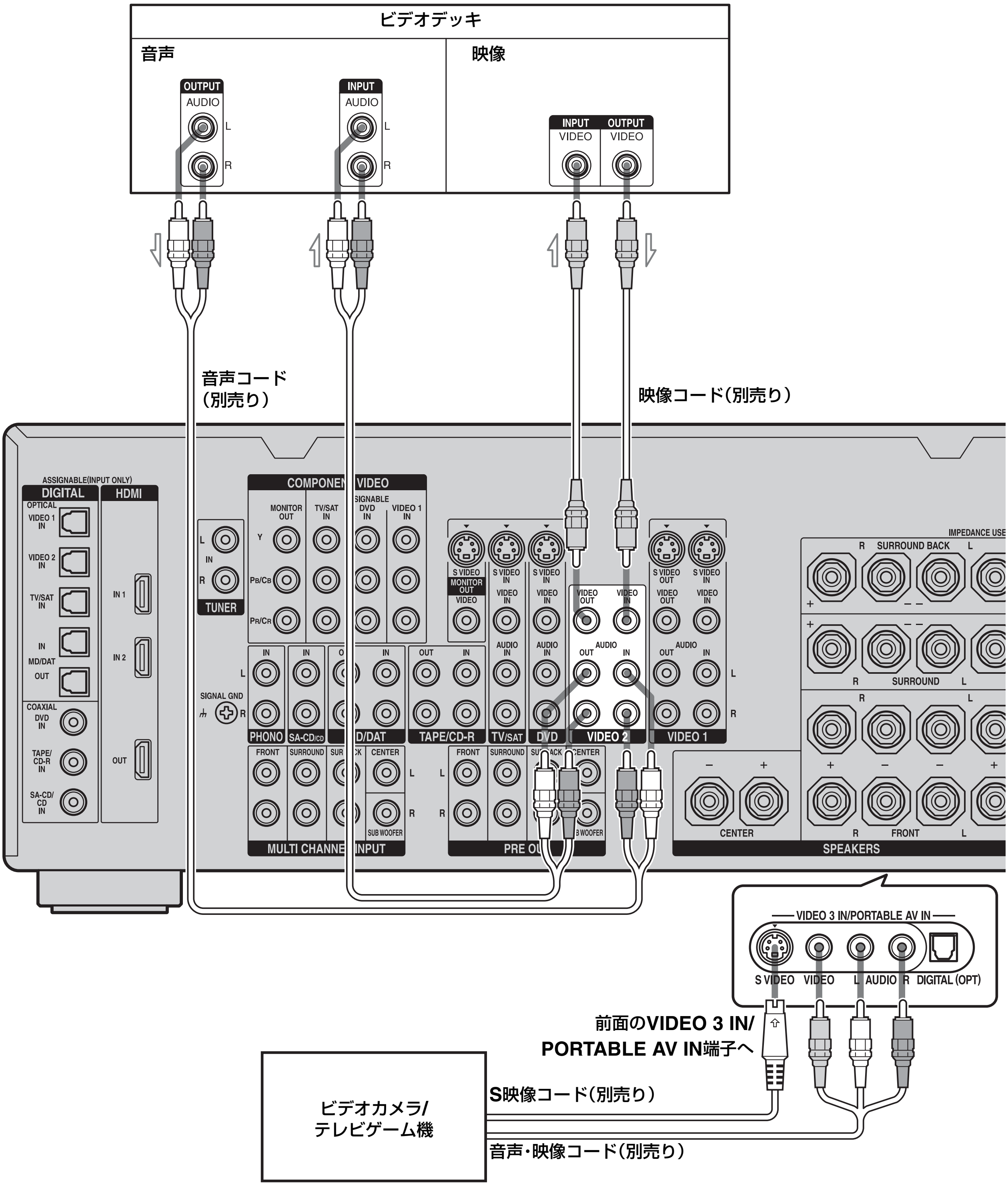
BSデジタル/デジタルCSチューナーを接続する

BSデジタル/デジタルＣＳチューナーの接続例です。すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



アナログ映像/音声出力端子のある機器

ビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

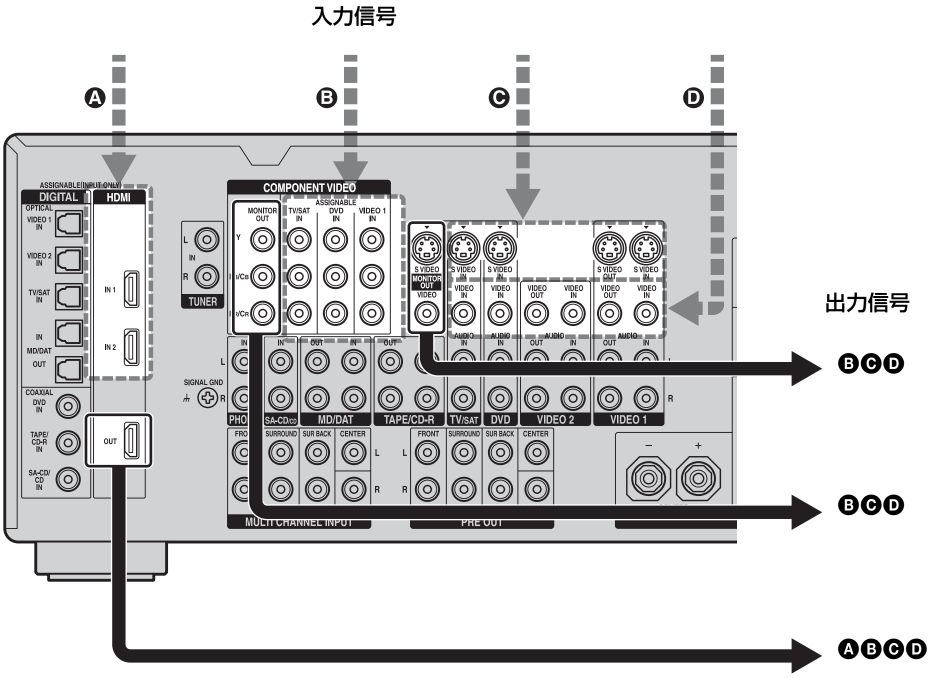


映像信号の変換機能について

本機は、テレビなどの映像機器の入力端子に合わせて1種類の信号をつなぐだけで、さまざまな再生機器の映像を楽しむことができます。
本機は、次ページの「本機の映像の入出力信号の関係について」の図のように、再生機器からの信号を内部で変換して、MONITOR OUT端子から出力します。

- 通常の映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、S映像信号に変換できます。
- S映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、通常の映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、S映像信号、通常の映像信号に変換できます。

本機の映像の入出力信号の関係について



出力端子 ＼ 入力信号（つなぐ端子）	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	S VIDEO MONITOR OUT	VIDEO MONITOR OUT
HDMI映像（HDMI IN 1/2）Ⓐ	△	×	×	×
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO IN）Ⓑ	○	△	○（入力信号は525iまで対応）	○（入力信号は525iまで対応）
S映像信号（S VIDEO IN）Ⓒ	○	○	○/△＊	○
通常の映像信号（VIDEO IN）Ⓓ	○	○	○	○/△＊

○：映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
△：映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
×：映像を出力しません。

＊　Video Settings メニューで「VIDEO CONVERT」を「OFF」に設定すると出力されます。

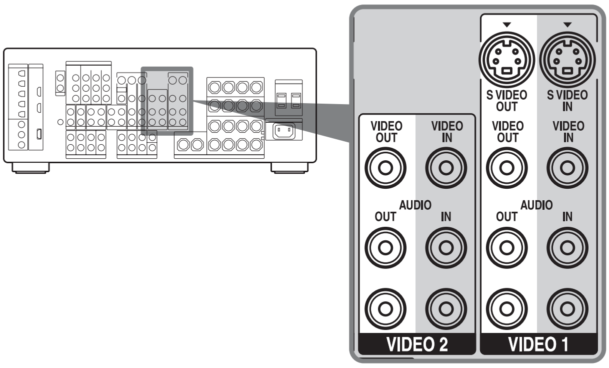
ご注意

- ビデオデッキからの通常の映像信号または S 映像信号を変換したものをテレビにつないでいる場合、映像信号の状態によってはテレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- HDMI 信号は、コンポーネント映像信号、S 映像信号、通常の映像信号に変換できません。
- 変換された映像信号は MONITOR OUT 端子以外（VIDEO OUT 端子、S VIDEO OUT 端子）からは出力されません。
- 画質向上回路（TBC など）を搭載したビデオデッキなどを再生するとき、映像が乱れたり出なくなることがあります。この場合、ビデオデッキなどの画質向上回路（TBC など）をオフにしてお使いください。

つづく

録画機器をつなぐには

録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子またはS VIDEO OUT端子につないでください。
VIDEO OUT端子やS VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。



メニューの設定による映像信号の入出力の関係

映像の変換機能はON/OFFを設定できます。Video Settingsメニューの「VIDEO CONVERT」と「PROGRESSIVE OUT」の設定による映像信号の入出力の関係は、以下の表のようになります。

メニューの設定	出力端子 / 入力信号	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	S VIDEO MONITOR OUT	VIDEO MONITOR OUT
VIDEO CONVERT: ON（初期設定）/ PROGRESSIVE OUT: OFF（初期設定）	通常の映像信号/S映像信号	○	○（525i）	○	○
	コンポーネント映像信号（525i）	○	△	○	○
	コンポーネント映像信号（525i以外）	○	△	×	×
VIDEO CONVERT: ON（初期設定）/ PROGRESSIVE OUT: ON	通常の映像信号/S映像信号	○	○（525p）	○	○
	コンポーネント映像信号（525i）	○	○（525p）	○	○
	コンポーネント映像信号（525i以外）	○	×	×	×
VIDEO CONVERT: OFF/ PROGRESSIVE OUT:（ダークアウト）	通常の映像信号	×	×	×	△
	S映像信号	×	×	△	×
	コンポーネント映像信号（525i）	×	△	×	×
	コンポーネント映像信号（525i以外）	×	△	×	×

○：映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
△：映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
×：映像を出力しません。

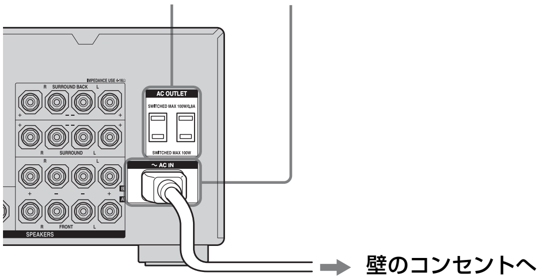
ご注意

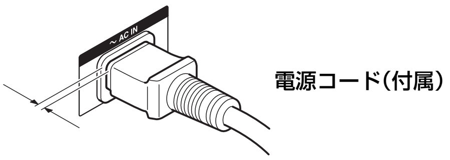
- MONITOR OUT 端子からの出力信号は、正しく録画できない場合があります。
- 映像の変換回路は 525i 以上のコンポーネント映像入力信号には対応していません。
- 本機は NTSC 方式の映像信号のみ対応します。

準備 4:本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

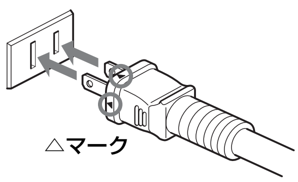
付属の電源コードを本機後面のAC IN（100V）端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お手持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。





本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

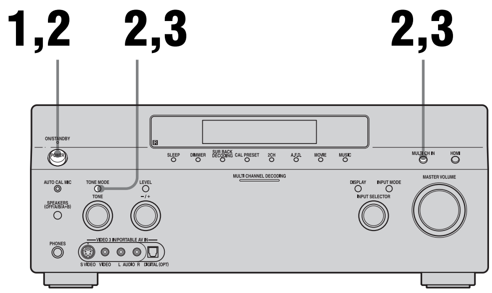
電源コードについて



付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。長短がない場合は、極性がわかる市販の検電ドライバーで調べます。

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 POWER を押して、本機の電源を切る。

2 TONE MODEとMULTI CH INを押しながら、POWER を押す。

3 2、3秒後にTONE MODEとMULTI CH INを離す。

表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示された後、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- Level Settings、EQ Settings、Sur Settings、Audio Settings、Video Settings、Speaker Settings、System Settings、Auto Calibrationの各メニューで設定した内容
- 入力ごとに記憶したサウンドフィールド
- 入力に付けた名前

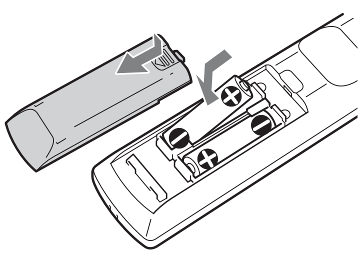
ご注意

- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- AC OUTLET 端子につなぐ機器の消費電力の合計が 100W を超えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因になります。

つづく

リモコンに電池を入れる

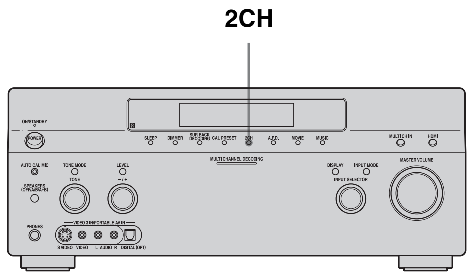
⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形アルカリ乾電池（付属）2個を入れます。



コマンドモードについて

本機（アンプ）のコマンドモードとリモコンのコマンドモードが一致していないと通信ができず、リモコンで操作できません。本機とリモコンの両方がお買い上げ時のコマンドモードのままならば（AV SYSTEM2）、設定し直す必要はありません。
アンプとリモコンのコマンドモードを切り換えることができます（AV SYSTEM1またはAV SYSTEM2）。
本機のリモコンでお手持ちのソニー製機器も動作する場合は、本機とリモコンのコマンドモードをAV SYSTEM1に変えると、他のソニー製機器は動作しなくなります。

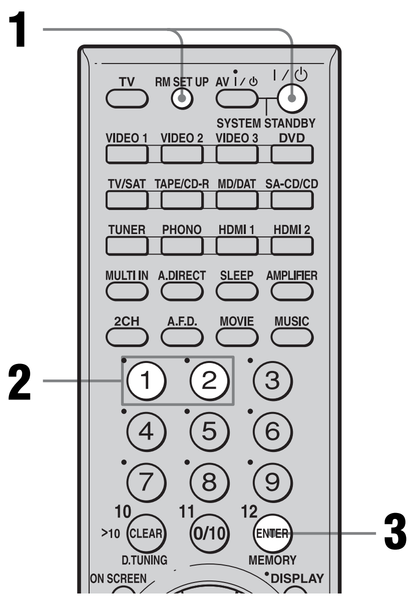
本体のコマンドモードを切り換えるには



2CH を押しながら電源を入れる。

表示窓に「COMMAND MODE [AV1]」と表示され、AV SYSTEM1に設定されます。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM1からAV SYSTEM2に設定が変わります。

リモコンのコマンドモードを切り換えるには



1 RM SET UP を押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す。

RM SET UPが点滅します。

ご注意
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（77 ページ）。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部🅁に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言
乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

2 RM SET UPが点滅している間に1または2を押す。

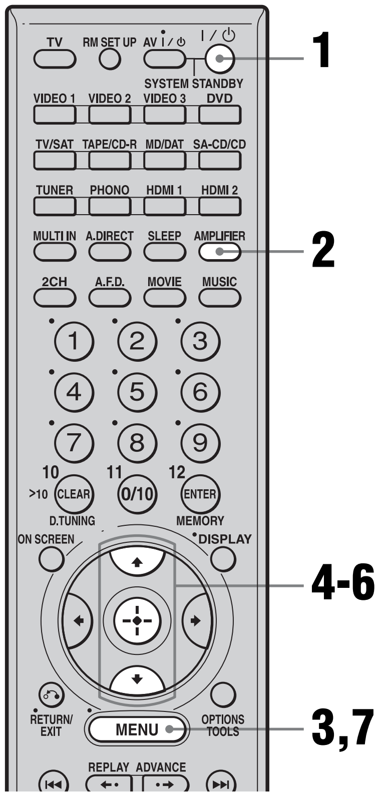
1を押すと、コマンドモードは「AV SYSTEM1」に設定され、2を押すと「AV SYSTEM2」に設定されます。

3 RM SET UP が点灯したら、ENTER を押す。

RM SET UPが2回点滅し、設定が完了します。

準備 5:スピーカーを設定する

スピーカーインピーダンスを設定する



1 本機の電源を入れる。

2 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

3 MENU を押す。

設定メニューのリストが表示されます。

4 ↑/↓をくり返し押して、「System Settings」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して、「SP. IMPEDANCE」を選び、⊕を押す。

ちょっと一言

RM SET UP は先の細いもので 1 秒以上押してください。

ご注意

お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。

つづく

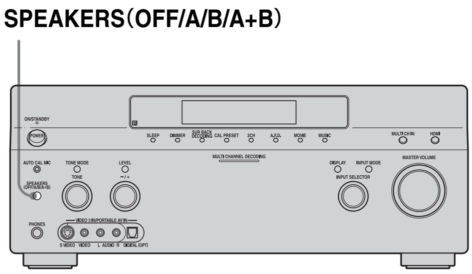
6 ↑/↓ をくり返し押して、お使いのスピーカーに合わせて「4 ohm」または「8 ohm」を選び、⊕を押す。

すべて8Ω以上のスピーカーをつないだ場合は、「SP. IMPEDANCE」を「8 ohm」に設定してください。それ以外の場合は「4 ohm」にしてください。

7 MENU を押して終了する。

フロントスピーカーを選ぶ

本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で、使用するフロントスピーカーを選びます。



SPEAKERS(OFF/A/B/A+B)をくり返し押して、使用するスピーカーシステムを選ぶ。

設定値	使うスピーカーシステム
A	FRONT SPEAKERS A端子につないだスピーカー
B	FRONT SPEAKERS B端子につないだスピーカー
A＋B	FRONT SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（パラレル接続）
OFF	すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

準備 6:自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

スピーカーのサイズや距離などの測定と設定を自動的に行います。操作については、付属の「**接続・設定ガイド**」もご覧ください。

測定の準備をする

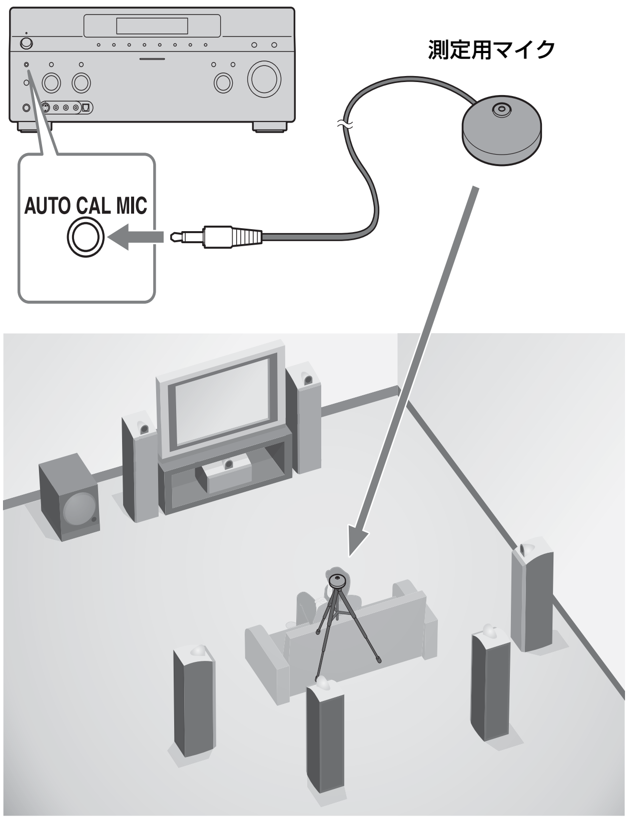
スピーカーを設置、接続してから、測定してください（12、13ページ）。

測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- バイアンプ接続をしているときは、測定前にサラウンドバックスピーカーの設定をバイアンプにしてください（53ページ）。
- 自動音場補正機能は、以下の場合は働きません。
  – MULTI INを選んでいる。
  – アナログダイレクト機能を使用している。
  – ヘッドホンをつないでいる。
- 消音機能が働いているときは、解除してください。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）でフロントスピーカーを切り換えることはできません。
- FRONT SPEAKERS A と B 端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は、8Ω 以上のスピーカーをつないでください。16Ω 以上のスピーカーを A と B 端子の両方につないだときは、「SP. IMPEDANCE」を「8 ohm」に設定してください。それ以外のときは「4 ohm」にしてください。



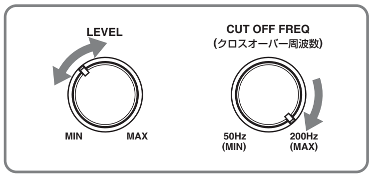
1 測定用のマイク（付属）を本機前面の AUTO CAL MIC 端子につなぐ。

2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



本機をプリアンプとして使う場合は

本機をプリアンプとして使う場合も、自動音場補正機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定する

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

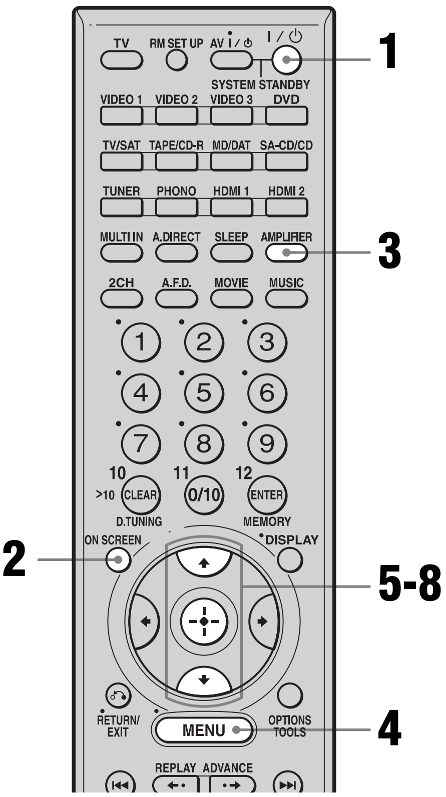
- スピーカーの有無[a)]
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離[b)]
- スピーカーのサイズ[b)]
- スピーカーのレベル
- 周波数特性[c)]

a) MULTI IN を選んでいる場合、センタースピーカー、サブウーファーに対してのみ、アナログダウンミックス処理で補正します。その他のスピーカーに対しては、補正は無効です。
b) MULTI IN を選んでいる場合は、測定結果は反映されません。
c) • 補正を行う場合、DTS 96/24 信号は強制的に 48kHz で再生されます。
• 以下の場合は、測定結果は反映されません。
– MULTI IN を選んでいる。
– サンプリング周波数が 96kHz より高い信号を受信している。
– アナログダイレクト機能を使用している。

ご注意

- お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。
- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの高さ情報は測定できません。Speaker Settings メニューの「SP-POSI.」で設定してください（54 ページ）。

つづく



1 本機とテレビの電源を入れる。

2 ON SCREEN を押し、本機のメニューをテレビに表示させる。

このときテレビの入力を本機のメニュー画面に切り換えてください。

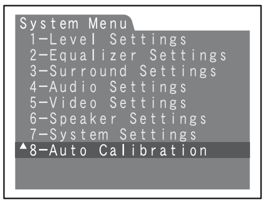
3 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

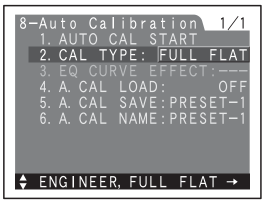
4 MENU を押す。

設定メニューのリストが表示されます。

5 ↑/↓ をくり返し押して、「Auto Calibration」を選び、⊕を押す。



6 ↑/↓ をくり返し押して、「CAL TYPE」を選び、⊕を押す。



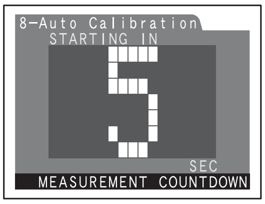
7 ↑/↓ をくり返し押して、測定タイプを選び、⊕を押す。

測定タイプ	説明
ENGINEER	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
FULL FLAT	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
FRONT REF	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。

8 ↑/↓ をくり返し押して、「AUTO CAL START」を選び、⊕を押して決定する。

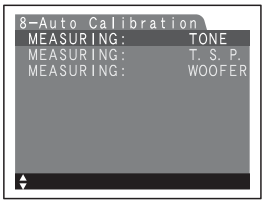
5秒後に測定を開始します。5秒から1秒までカウントダウンが表示されます。

この間に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。



9 測定が始まる。

測定時間は約30秒です。測定が終了するまでお待ちください。



測定を中止するには

ボリューム操作、ファンクション切り換え、本体のスピーカー設定の切り換え、ヘッドホンの接続で中止されます。

ちょっと一言

- 測定中に有効な操作は電源の ON/OFF と ON SCREEN の ON/OFF 操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。
- スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、設定を変更することもできます（52 ページ）。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

測定結果を確認/保存する

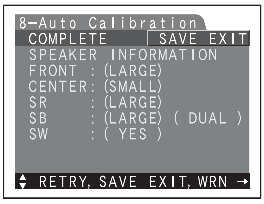
1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	COMPLETE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR CODE XX	以下の「エラーが出たときは」をご覧ください。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「SAVE EXIT」を選び、⊕を押す。

「A.CAL SAVE」の画面が表示されます。



その他の項目については、以下をご覧ください。

項目	説明
RETRY	再測定します。
SAVE EXIT	測定した設定を保存し、終了します。
WRN CHECK	測定結果の注意事項を表示します。以下の「「WRN CHECK」を選んだときは」をご覧ください。
PHASE INFO	各スピーカーの位相（正相/逆相）を表示します。「「PHASE INFO」を選んだときは」（36ページ）をご覧ください。
DIST. INFO	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
LEVEL INFO	スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

3 ↑/↓ をくり返し押して、設定を保存する番号（PRESET-1 ～ 3）を選び、⊕を押す。

測定結果が保存されます。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

エラーの種類	原因と対策
CODE 31	SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）がOFFになっています。SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）を音の出る状態にして、再測定してください。
CODE 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
CODE 33 (F)	フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1本しか接続されていません。 測定用マイクが接続されていません。
CODE 33 (SR)	• 左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。 • サラウンドスピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーが接続されています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子に接続してください。
CODE 33 (SB)	サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK SPEAKERS R端子にのみ接続されています。 サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L端子に接続してください。

- **CODE 31**

⊕を押し、「測定する」の手順１から再測定します。

- **CODE 32、33**

1 ⊕を押すと「RETRY？」と表示されます。
2 ↑/↓ をくり返し押して、「YES」を選び、⊕を押して決定します。
3「測定する」の手順２から再測定します。
4 ↑/↓ をくり返し押して、測定結果を保存する番号を選び、⊕を押します。

「WRN CHECK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

⊕を押し、「測定結果を確認 / 保存する」の手順１に戻る。

WARNINGの種類	説明
WARNING 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

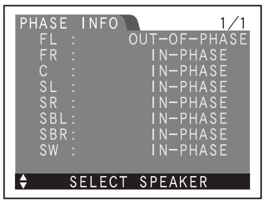
つづく

WARNINGの種類	説明
WARNING 41	測定用マイクからの入力が過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARNING 42	アンプのボリュームが過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARNING 43	サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。または、スピーカーの設置角度が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。

「PHASE INFO」を選んだときは

各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

↑/↓ をくり返し押してスピーカーを選び、⊕を押して「測定結果を確認 / 保存する」の手順１に戻る。



表示	説明
IN-PHASE	正相です。
OUT-OF-PHASE	逆相です。スピーカーの+/−端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。
- - - -	スピーカーが接続されていません。

自動音場補正機能（Auto Calibration）の設定項目

■AUTO CAL START?
（自動音場補正の測定開始）

- MEASUREMENT COUNTDOWN
  測定前5秒から１秒までカウントダウン表示されます。
- MEASURING TONE
  TONE測定中です。
- MEASURING T.S.P.
  TSP測定中です。
- MEASURING WOOFER
  WOOFER測定中です。
- COMPLETE
  測定が正常に終了したときに表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（35ページ）をご覧ください。
- WARNING CODE　■■■:4■
  測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報が表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（35ページ）をご覧ください。
- NO WARNING
  WARNING情報がなかった場合に表示されます。
- ERROR CODE　■■■:3■
  測定が正常に終了しなかった場合に表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（35ページ）をご覧ください。
- RETRY？
  測定の結果エラーだった場合、再測定するか、再測定せずに終了するかを確認します。
- CANCEL
  測定を中断した場合に表示されます。

■CAL TYPE*
（測定タイプ）

- ENGINEER
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- FULL FLAT
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- FRONT REF
  すべてのスピーカー特性をフロントスピーカーの特性に整えます。

ちょっと一言
サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

■**EQ CURVE EFFECT***
（測定したEQカーブの有効、無効）

- OFF
  測定したEQカーブを無効にします。
- ON
  測定したEQカーブを有効にします。測定終了後に自動的にONに設定されます。

＊周波数特性の補正結果を反映すると、DTS 96/24 信号は強制的に 48kHz で再生されます。
＊以下の場合は、周波数特性の補正結果は反映されません。
－ MULTI IN を選んでいる。
－ サンプリング周波数が 96kHz より高い信号を受信している。

■**A.CAL LOAD?**
（測定値の読み込み）

- PRESET-1
  「PRESET-1」に保存された測定値を読み込みます。
- PRESET-2
  「PRESET-2」に保存された測定値を読み込みます。
- PRESET-3
  「PRESET-3」に保存された測定値を読み込みます。
- OFF
  プリセットの値を読み込みたくないときに選びます。

■**A.CAL SAVE?**
（測定結果の保存）

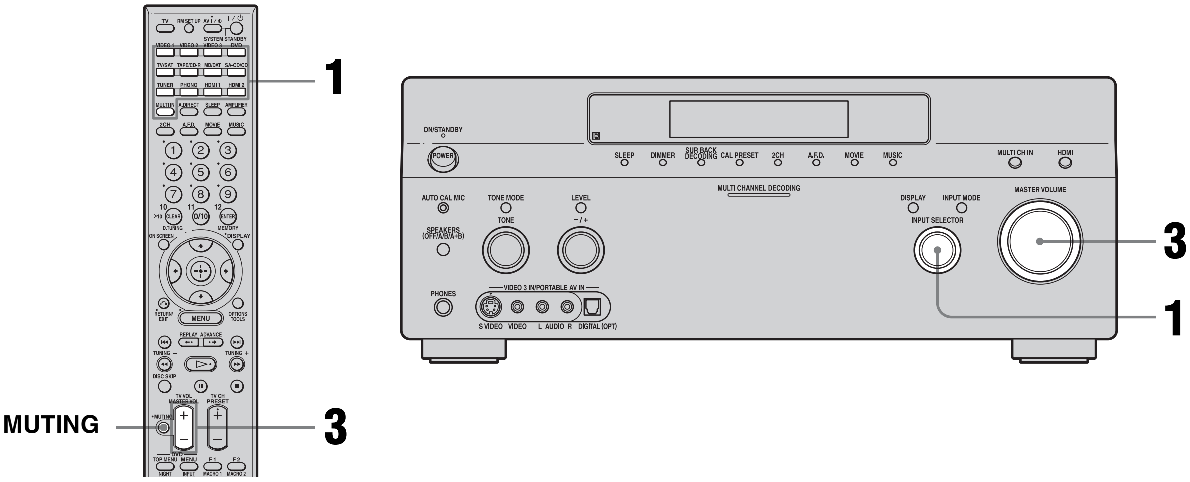
- PRESET-1
  測定結果を「PRESE-1」として保存します。
- PRESET-2
  測定結果を「PRESE-2」として保存します。
- PRESET-3
  測定結果を「PRESE-3」として保存します。

■**A.CAL NAME?**
（名前の入力）

保存する測定値の名前を、わかりやすいものに変更できます。

アンプの入力を選ぶ

（INPUT SELECTOR）



💡
音を一時的に消したいときはリモコンの MUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはボリュームを調節して音量を上げます。消音中に本体の電源を切っても、再度電源を入れたときは消音機能が働いています。

💡
スピーカーの破損を防ぐために、電源を切る前に VOLUME つまみを最小にしておいてください。

1 入力切り換え用のボタンを押す。

または、本体のINPUT SELECTORつまみを回します。
選んだ入力が本機の表示窓に表示されます。
HDMI IN 1/2端子につないだ機器を選ぶときは、HDMIボタンをくり返し押してください。
MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器を選ぶときは、MULTI CH INボタンを押してください。

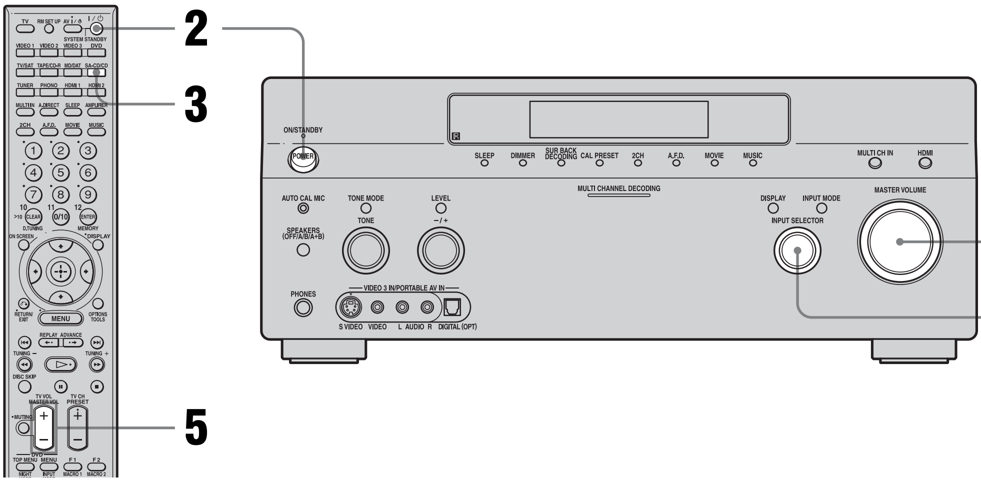
選んだ入力	再生する機器
VIDEO 1または2	VIDEO 1またはVIDEO 2端子につないだビデオデッキなど
VIDEO 3	VIDEO 3端子につないだビデオカメラ、テレビゲームなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
TV/SAT	TV/SAT端子につないだBS/CSチューナーなど
TAPE/CD-R	TAPE/CD-R端子につないだカセットデッキなど
MD/DAT	MD/DAT端子につないだMDデッキ、DATデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
PHONO	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
MULTI IN	MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器
HDMI 1または2	HDMI端子につないだHDMI機器など

2 アンプにつないだ機器の電源を入れ、再生する。

3 MASTER VOL ＋ / －を押して、音量を調節する。

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。
音量の初期値は最小（消音）になっています。

スーパーオーディオ CD/CD を聞く



!

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオ CD プレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 59 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
クラシック：HALL
ジャズ：JAZZ CLUB
ライブコンサート：
LIVE CONCERT、STADIUM

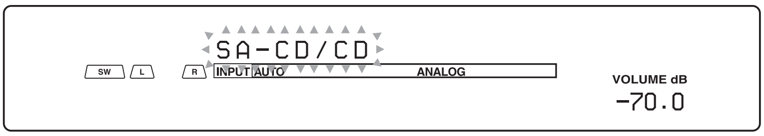
1 スーパーオーディオCDプレーヤー/CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの SA-CD/CD を押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してSA-CD/CDを選びます。

表示例）

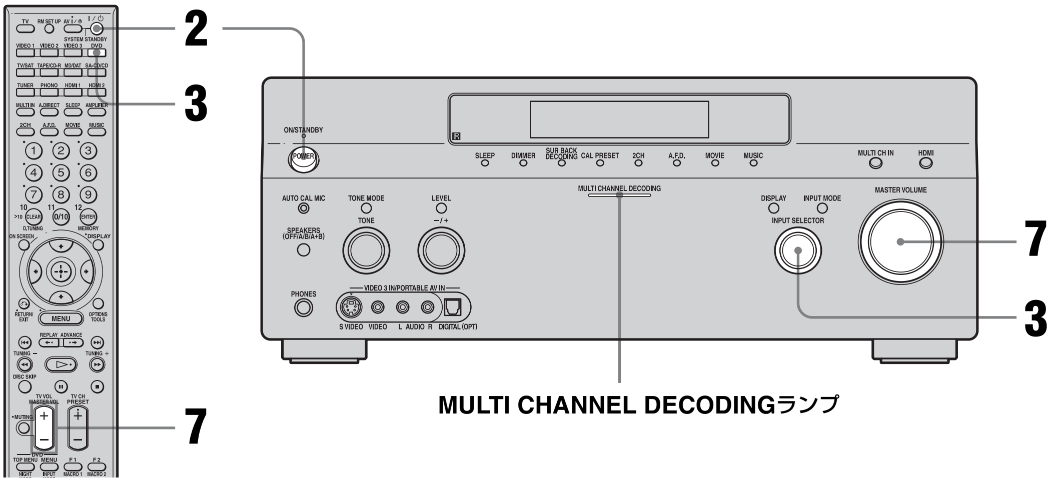


4 ディスクを再生する。

5 ボリュームを適当な音量に調節する。

6 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

DVD を見る



!

テレビ、DVD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 59 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
映画：CINEMA STUDIO EX
ライブ映像：LIVE CONCERT
スポーツ：SPORTS

!

マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。
- ソフトがマルチチャンネルに対応しているか（再生時に前面の MULTI CHANNEL DECODING ランプが点灯しているか）。
- 本機と DVD プレーヤーがデジタル接続されているか。
- DVD プレーヤー側の音声デジタル出力が設定されているか。

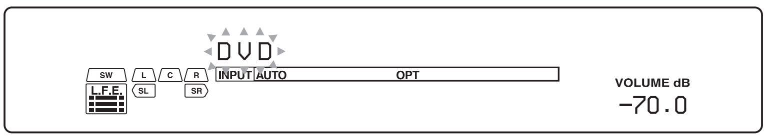
1 テレビ、DVD プレーヤーの電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの DVD を押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してDVDを選びます。

表示例）



4 テレビの入力を DVD プレーヤーの映像が映るように切り換える。

5 DVD プレーヤーの設定をする。

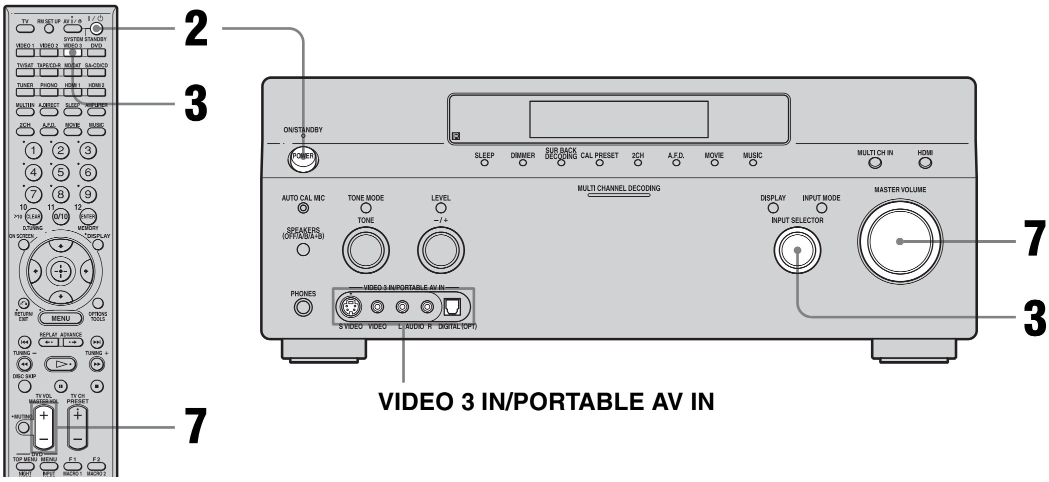
詳しくは、付属の「接続・設定ガイド」をご覧ください。

6 ディスクを DVD プレーヤーにセットし、再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

ゲームを楽しむ



!
テレビ、テレビゲーム機の操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

1 テレビ、テレビゲーム機の電源を入れる。

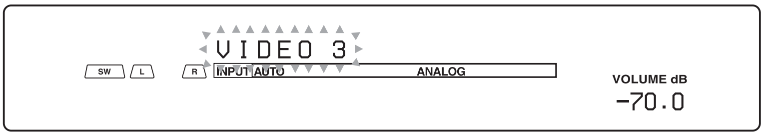
2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの VIDEO 3* を押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO 3*を選びます。

* テレビゲーム機を本体前面の VIDEO 3 IN/PORTABLE AV IN 端子につないでいる場合です。

表示例）



4 テレビの入力をテレビゲーム機の映像が映るように切り換える。

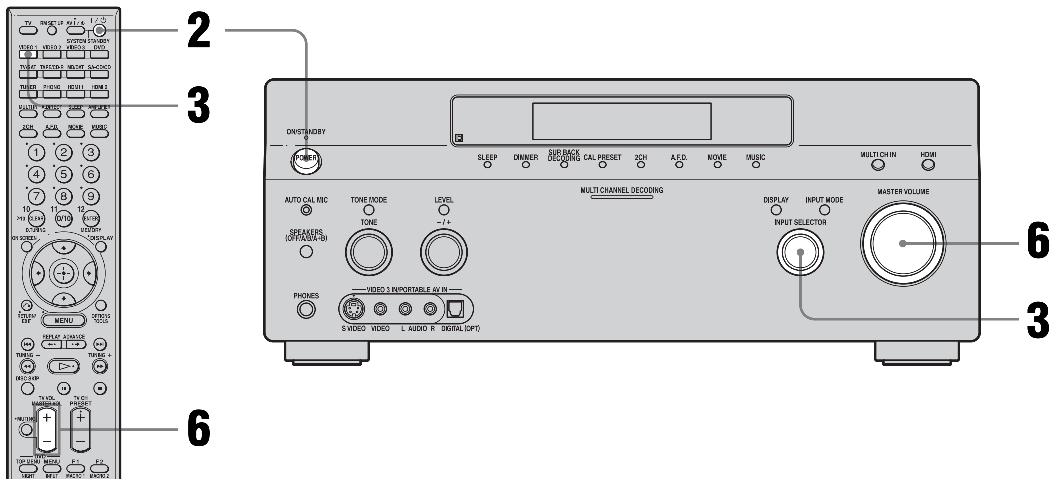
5 テレビゲーム機の設定をする。

6 ディスクをテレビゲーム機にセットし、再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切る。

ビデオを見る



テレビ、ビデオデッキの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ビデオデッキの電源を入れる。

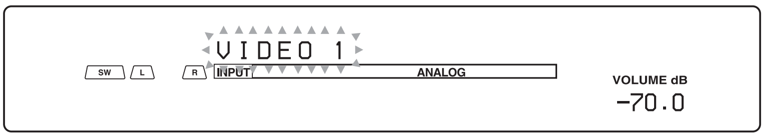
2 アンプ(本機)の電源を入れる。

3 リモコンの VIDEO 1* を押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO 1*を選びます。

* ビデオデッキを VIDEO 1 端子につないでいる場合です。

表示例）



4 テレビの入力をビデオデッキの映像が映るように切り換える。

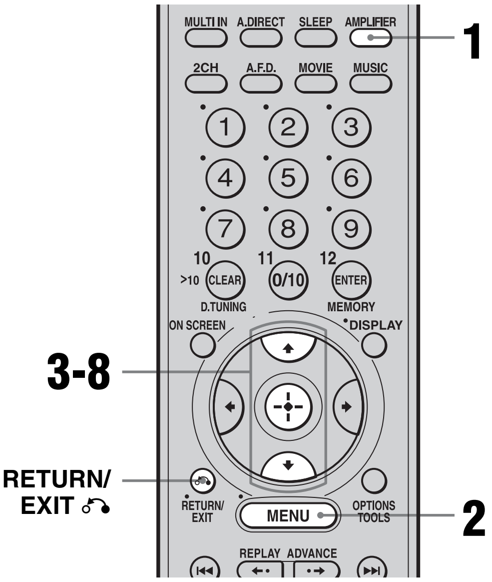
5 ビデオテープを再生する。

6 ボリュームを適当な音量に調節する。

7 使い終わったらビデオテープを取り出し、各機器の電源を切る。

メニューを使ってアンプを設定する

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。



1 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。

設定メニューのリストが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

4 ⊕を押して、メニューを表示する。

5 ↑/↓ をくり返し押して、設定したい項目を選ぶ。

6 ⊕を押す。

手順5で選んだ設定項目のパラメーターを選べるようになります。

7 ↑/↓ をくり返し押して、パラメーターを選ぶ。

8 ⊕を押して、パラメーターを確定する。

9 他の項目を設定するときは、手順５から８をくり返す。

前の表示に戻るには

RETURN/EXIT↶を押します。

メニューから抜けるには

MENUを押します。

ご注意

表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

つづく

メニュー一覧

各メニューから以下のオプションが設定できます。メニュー操作について詳しくは、43ページをご覧ください。

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
1-Level Settings	TEST TONE [■■■■■■■■■]	OFF、AUTO、FIX	OFF	46～47ページ
	PHASE NOISE [■■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF	
	PHASE AUDIO [■■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF	
	FRONT BAL. [■■■.■ dB]	R＋20.0dB～L＋20.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	CENTER [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND L [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND R [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUR BACK [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUR BACK L [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUR BACK R [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUB WOOFER [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	MULTI CH SW [■■■■■]	0dB、＋10.0dB	0dB	
	D. RANGE COMP. [■■■]	OFF、STD、MAX	OFF	
2-EQ Settings	EQ PRESET [■■■]	1、2、3、4、5、OFF	1	47～48ページ
	FRONT BASS [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	FRONT TREBLE [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER BASS [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER TREBLE [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SUR/SB BASS [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SUR/SB TREBLE [■■■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	PRESET ■ CLEAR [■■■]	YES、NO	NO	
3-Sur Settings	SOUND FIELD SELECT?		A.F.D. AUTO	57ページ
	SB DECODING [■■■■]	OFF、AUTO、ON	AUTO	48～50ページ
	SB DEC MODE [■■■■■■■■]	DDEX、PLIIx MV、PLIIx MS	PLIIx MV	
	EFFECT LEVEL	20%～120%（5%単位）	100%	
	CENTER WIDTH [■]	8ステップ	3	
	DIMENSION [■■■■■■■■]	FRONT＋3～SUR＋3	0	
	PANORAMA MODE [■■■]	OFF、ON	OFF	
	SCREEN DEPTH [■■■]	ON、OFF	ON	
	VIR. SPEAKERS [■■■]	ON、OFF	ON	
4-Audio Settings	DEC. PRIORITY [■■■■]	PCM、AUTO	AUTO	50～51ページ
	DUAL MONO [■■■■■■■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB、MAIN＋SUB	MAIN	
	A/V SYNC [■■■ms]	0ms～150ms/300ms（10ms単位）	0ms	
	DIGITAL ASSIGN?			68ページ
	NAME IN? [■■■]			66ページ
5-Video Settings	COMPONENT V. ASSIGN?			70ページ
	HDMI VIDEO ASSIGN?			69ページ
	HDMI AUDIO [■■■■■■]	AMP、TV+AMP	AMP	51～52ページ
	HDMI POWER [■■■■■■■■]	AUTO、EVER ON	AUTO	
	VIDEO CONVERT [■■■]	ON、OFF	ON	
	PROGRESSIVE OUT [■■■]	ON、OFF	OFF	
	NAME IN? [■■■■■■■■■]			66ページ

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
6-Speaker Settings	SUB WOOFER [■■■]	NO、YES	YES	52～55ページ
	FRONT SP [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE	
	CENTER SP [■■■■■]	MIX、NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURROUND SP [■■■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SUR BACK SP [■■■■■■]	BI-AMP、NO、SINGLE、DUAL	DUAL	
	FRONT L			
	FRONT R			
	CENTER			
	SURROUND L			
	SURROUND R ■.■meter（自動音場補正機能で測定後は■m■■cm）	1.0m～7.0m（0.1m単位、自動音場補正機能で測定後は1cm単位）	3.0m	
	SUR BACK L			
	SUR BACK R			
	SUB WOOFER			
	DISTANCE UNIT [■■■■■]	meter、feet	meter	
	SP POSI. [■■■■■■■■■■]	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW	
	SP CROSSOVER [■■■Hz]	40Hz～200Hz（10Hz単位）	120Hz	
7-System Settings	DIMMER [■■■% DOWN]	0%、60%、100%	0%	55ページ
	SP. IMPEDANCE [■■■■]	4ohm、8ohm	8ohm	31ページ
8-Auto Calibration	AUTO CAL START?			36～37ページ
	CAL TYPE [■■■■■■■■■■]	ENGINEER、FULL FLAT、FRONT REF	FULL FLAT	
	EQ CURVE EFFECT [■■■]	OFF、ON	OFF	
	A. CAL LOAD? [PRESET-■]	OFF、PRESET1、PRESET2、PRESET3	OFF	
	A. CAL SAVE? [PRESET-■]	PRESET1、PRESET2、PRESET3	PRESET 1	
	A. CAL NAME? [■■■■■■■■■■]			66ページ

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

Level Settingsメニューを使って、各スピーカーのレベルやバランスを調整できます。
調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。設定メニューから「Level Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

Level Settingsメニューの設定項目

■TEST TONE
（テストトーン）

それぞれのスピーカーから順番にテストトーンを出します。
- OFF
- AUTO

テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。
- FIX

テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。

■PHASE NOISE
（フェーズノイズ）

- ON

となりあった2つずつのスピーカーから順番にテストトーンを出します。
- OFF

■PHASE AUDIO
（フェーズオーディオ）

- ON

となりあった2つずつのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。
- OFF

■FRONT BAL.
（フロントスピーカーバランス）

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。

■CENTER
（センタースピーカーレベル）

■SURROUND L
（サラウンドスピーカー（左）レベル）

■SURROUND R
（サラウンドスピーカー（右）レベル）

■SUR BACK
（サラウンドバックスピーカーレベル）

System Settingsメニューのサラウンドバックスピーカーの設定が「SINGLE」に設定されているときのみ設定できます（53ページ）。

■SUR BACK L
（サラウンドバックスピーカー（左）レベル）

System Settingsメニューのサラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」に設定されているときのみ設定できます（53ページ）。

■SUR BACK R
（サラウンドバックスピーカー（右）レベル）

System Settingsメニューのサラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」に設定されているときのみ設定できます（53ページ）。

■SUB WOOFER
（サブウーファーレベル）

■MULTI CH SW
（マルチチャンネルサブウーファーレベル）

MULTI CHANNEL INPUT端子のサブウーファーのレベルを10 dB上げることができます。DVDプレーヤーのサブウーファーレベルはスーパーオーディオCDよりも10 dB低いため、DVDプレーヤーをMULTI CHANNEL INPUT端子につないだときは、この設定項目で10dB上げると効果的な場合があります。

ご注意
- 本機につないだテレビに設定画面を表示しているときは、HDMI 音声は出力されません。
- 音楽用サウンドフィールドで Speaker Settings メニューのすべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「PORTABLE AUDIO」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。

■D.RANGE.COMP.
（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

- OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

- STD

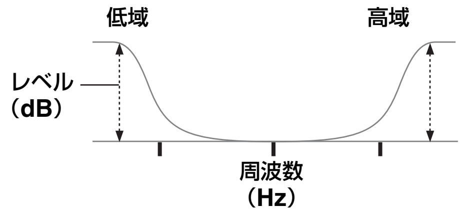
レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

- MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

イコライザー（低域 / 高域のレベル）を調節する

EQ Settingsメニューを使って、フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節できます。また、本機のイコライザープリセットに5通りの設定（EQ PRESET［1］～［5］）を登録して、いつでも呼び出すことができます。
調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。設定メニューから「EQ Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。



EQ Settingsメニューの設定項目

■EQ PRESET
（イコライザープリセットの選択）

イコライザープリセット（[1]～[5]）を選びます。
「OFF」にするとイコライザー効果がオフになります。

■FRONT BASS*
（フロントスピーカーの低域レベル）

■FRONT TREBLE*
（フロントスピーカーの高域レベル）

* フロントスピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体のTONE MODE、TONE つまみでも調節できます。

■CENTER BASS
（センタースピーカーの低域レベル）

■CENTER TREBLE
（センタースピーカーの高域レベル）

■SUR/SB BASS
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの低域レベル）

ちょっと一言

「D.RANGE.COMP.」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

ご注意

- イコライザーの設定は、以下の場合は機能しません。
  - MULTI IN を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 96kHz より高い信号を受信している。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に48kHz で再生されます。

つづく

■**SUR/SB TREBLE**
（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの高域レベル）

■**PRESET ■ CLEAR**
（イコライザープリセットクリア）

調節したイコライザープリセットの設定を、お買い上げ時の設定に戻します。詳しくは、以下の「イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには」をご覧ください。

登録したイコライザーを呼び出すには

1 「メニューを使ってアンプを設定する」（43 ページ）の手順 1 ～ 3 を行い、手順 3 で「EQ Settings」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して、呼び出したいイコライザー（EQ PRESET［1］～［5］）を選び、⊕を押す。

イコライザー効果をオフにするには

EQ PRESETから「EQ PRESET[OFF]」を選びます。

イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには

1 「メニューを使ってアンプを設定する」（43 ページ）の手順 1 ～ 3 を行い、手順 3 で「EQ Settings」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して、お買い上げ時の設定に戻したいイコライザー（EQ PRESET［1］～［5］）を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して、「PRESET ■ CLEAR」を選び、⊕を押す。
■には、選んだイコライザープリセットの番号が入ります。

4 ↑/↓をくり返し押して、「YES」を選び、⊕を押す。
「Are you sure?」と表示されます。

5 ↑/↓をくり返し押して、「YES」を選び、⊕を押す。
「PRESET ■ CLEARED !」と表示され、選んだイコライザーがお買い上げ時の設定に戻ります。

サラウンド効果を調節する

Sur Settingsメニューを使って、お好みのサウンドフィールドを選び、サラウンド効果を楽しむことができます。
設定メニューから「Sur Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

Sur Settingsメニューの設定項目

■**SOUND FIELD SELECT?**
（サウンドフィールドの種類の選択）

お好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」（57ページ）をご覧ください。

■**SB DECODING**
（サラウンドバックデコーディング）

サラウンドバックデコーディング機能の種類を選びます。詳しくは、「ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる」（49ページ）をご覧ください。

■**SB DEC MODE**
（サラウンドバックデコーディングモード）

サラウンドバックデコーディングモードを選びます。詳しくは、「ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる」（49ページ）をご覧ください。

■**EFFECT LEVEL**
（エフェクトレベル）

値を上げるほど、サラウンド効果が大きくなります。

■**CENTER WIDTH**
（センター音像イメージ幅コントロール）

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（58ページ）場合のみ設定できます。
ドルビープロロジックIIで生成したセンターチャンネルの音声を、フロントL/Rスピーカーに振り分ける調節ができます。

■DIMENSION
（ディメンションコントロール）

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（58ページ）場合のみ設定できます。
フロントチャンネルとサラウンドチャンネルのレベル差を調節できます。

■PANORAMA MODE
（パノラマモード）

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（58ページ）場合のみ設定できます。

- ON

フロントの音場を左右に大きく回りこませて、サラウンドにつながるような音場モード（パノラマモード）を楽しむことができます。

- OFF

パノラマモードは働きません。

■SCREEN DEPTH
（スクリーンの奥行き）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（60ページ）専用の設定です。
映画館のように、フロントスピーカーの音がスクリーンの中から出てくるような感覚を、リスニングルームにつくり出します。

- ON

非常に大きなスクリーンから音が出てくるような奥行き感をつくり出します。

- OFF

この機能は働きません。

■VIR.SPEAKERS
（仮想スピーカー）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（60ページ）専用の設定です。

- ON

仮想スピーカーを生成します。

- OFF

仮想スピーカーを生成しません。

ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる

「ドルビーデジタルEX」や「DTS-ESマトリックス6.1」、「DTS-ESディスクリート6.1」などで記録された映画のDVDソフトなどを再生するとき、サラウンドバック信号をデコードします。これにより、映画製作者が意図したサラウンド音声を楽しむことができます。

■SB DECODING

- AUTO

入力ストリームに6.1チャンネルを示すフラグa)があるとき、以下のデコード処理をします。

入力ストリーム	出力チャンネル	サラウンドバックデコード処理
ドルビーデジタル5.1	5.1e)	—
ドルビーデジタルEXb)	6.1e)	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理（50ページ）
DTS 5.1	5.1e)	—
DTS-ESマトリックス6.1c)	6.1e)	DTSマトリックスデコード処理
DTS-ESディスクリート6.1d)	6.1e)	DTSディスクリートデコード処理

a) DVDなどのソフトに書き込まれている情報です。
b) サラウンドEXフラグが書き込まれている、ドルビーデジタルのDVDです。ドルビー社のホームページなどで、サラウンドEX映画を判別することができます。
c) 5.1チャンネルの信号とともに、DTS-ESマトリックス信号であることを示すフラグが書き込まれています。
d) 5.1チャンネルの信号とともに、これをディスクリート6.1チャンネルに戻すための拡張ストリームが記録されています。ディスクリート6.1チャンネル信号は、映画館では使用されないDVD専用の信号です。
e) サラウンドバックスピーカーを2本つないでいるときは、7.1チャンネルになります。

- ON

入力ストリーム5.1チャンネル、6.1チャンネルの信号に対してSB DEC MODEで設定（50ページ）されたデコード処理を行います。

- OFF

サラウンドバック信号はデコードされません。

ご注意

- サラウンドバックデコーディング機能は、以下の場合は機能しません。
  - MULTI INを選んでいる。
  - 音楽用または映画用のサウンドフィールドが選ばれている。
  - DTS 96/24信号を受信している。
  - HDMI入力でマルチチャンネルPCM信号を受信している。
- パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、フラグが書き込まれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、「ON」を選んでください。
- A.F.D.モードで「PLIIx」を選んでいるときは、SB DEC MODEの設定に関わらず、PLIIxデコード処理されます。

つづく

■SB DEC MODE

サラウンドバックデコーディング機能で「AUTO」または「ON」を選んでいて、入力信号にドルビーデジタルサラウンドEXフラグが含まれているときは、さらに下記のサラウンドバックデコーディングモード（SB DEC MODE）を選べます。

サウンドバックデコーディングモード（SB DEC MODE）	スピーカー設定	サラウンドバックデコード処理
「DDEX」	7.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MV」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MS」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理
	6.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理

音声を設定する

Audio Settingsメニューを使って、お好みに合わせて音声を設定できます。
設定メニューから「Audio Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

Audio Settingsメニューの設定項目

■DEC. PRIORITY（デジタル音声入力デコードプライオリティ）

DIGITAL IN端子とHDMI IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

• AUTO

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。

• PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、接続している機器からはPCM信号のみ出力されるようになります。
その他のフォーマットを受信する場合は「AUTO」に設定してください。

■DUAL MONO（二重音声モード）

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

• MAIN/SUB

左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

• MAIN

主音声のみを再生します。

• SUB

副音声のみを再生します。

• MAIN+SUB

主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ご注意

- 映画用のサウンドフィールドが選ばれているときは、SB DEC MODE の設定に関わらず、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われます。
- PLIIx MS モードを選んでも、下記の場合は、通常時とデコード処理が異なります。スピーカー設定が 6.1ch のときは、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われ、スピーカー設定が 7.1ch のときは、ドルビープロロジック IIx ムービー処理が行われます。
  – ドルビーデジタルサラウンド EX 信号が入力されている。
  – SB DECODING が「AUTO」に設定されている。
- DEC. PRIORITY を「AUTO」に設定して CD などのデジタル音声を入力したときに、再生を始めると音が途切れる場合は「PCM」にしてください。

■A/V SYNC
（音声と映像出力の同期）

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。

■DIGITAL ASSIGN?
（デジタル音声入力の割り当て）

特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（68ページ）をご覧ください。

■NAME IN?
（名前設定）

入力に名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（66ページ）をご覧ください。

映像を設定する

Video Settingsメニューを使って、コンポーネントビデオ入力を他の入力に割り当て、名前を付けることができます。

設定メニューから「Video Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

Video Settingsメニューの設定項目

■COMPONENT V. ASSIGN?
（コンポーネントビデオ入力の割り当て）

コンポーネントビデオ入力を他の映像入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にコンポーネント映像端子を割り当てる」（70ページ）をご覧ください。

■HDMI VIDEO ASSIGN?
（HDMI入力の割り当て）

HDMI入力を他の映像入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にHDMI端子を割り当てる」（69ページ）をご覧ください。

■HDMI AUDIO
（HDMI音声出力の設定）

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

- TV+AMP

再生機の音声は、本機と、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生されます。

- AMP

再生機の音声は、本機につないだスピーカーとPRE OUTから出力されます。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。

ご注意

- A/V SYNC 機能は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- A/V SYNC 機能は、以下の場合は機能しません。
  – MULTI IN を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 96kHz より高い信号を受信している。
  – HDMI 入力でマルチチャンネル PCM 信号を受信している。
  – アナログダイレクト機能を使用している。
- A/V SYNC 機能は、サンプリング周波数が 48kHz 以下の信号とアナログ 2 チャンネル信号は 300ms まで、サンプリング周波数が 88.2kHz と 96kHz の信号は 150ms まで設定可能です（このとき表示は 300ms まで表示されますが、150ms までが有効です）。
- HDMI AUDIO が「TV+AMP」に設定されているときは、本機で再生する音声はテレビの性能に依存します。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ない場合があります。この場合は、HDMI AUDIO を「AMP」に設定してください。
- HDMI AUDIO が「AMP」に設定されているときは、テレビのスピーカーから音は出ません。

つづく

■**HDMI POWER**
（HDMI回路の電源管理）

• AUTO

不必要なHDMI回路の電源を自動的に切ります。HDMI周りの電源を落とすことで、高品質なデジタルまたはアナログサウンドをお楽しみいただけます。「AUTO」に設定する場合、音がでるまでにある程度の時間がかかります。

• EVER ON

HDMI回路の電源を常に入れたままにします。「AUTO」に設定して、音が出るまでに時間がかかることが気になる場合などに選びます。つなぐ機器によっては効果がない場合もあります。

■**VIDEO CONVERT***
（映像信号の変換）

• ON

映像信号を変換します（26ページ）。

• OFF

VIDEO CONVERT機能は働きません。

■**PROGRESSIVE OUT***
（映像信号のプログレッシブ変換）

• ON

映像信号がコンポーネント信号として出力されたときに、525pに変換された映像信号を出力します。

• OFF

PROGRESSIVE OUT機能は働きません。

＊各ビデオ設定値は INPUT SELECTOR ごとに独立して調節できます。調節した値は、本機のメモリーがクリアされるまで保持されます。電源を切ったり、電源コードを抜いても調節した値は記憶されています。

■**NAME IN?**
（名前設定）

入力に名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（66ページ）をご覧ください。

スピーカーを設定する

Speaker Settingsメニューを使って、本機につないで使用するスピーカーと、その大きさ、距離などを設定できます。
設定メニューから「Speaker Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

Speaker Settingsメニューの設定項目

■**SUB WOOFER**
（サブウーファー）

• YES
サブウーファーをつないだ場合に選びます。
• NO
サブウーファーをつながない場合に選びます。低域変換機能が働き、L.F.E.（重低音効果）信号が他のスピーカーから再生されます。

■**FRONT SP**
（フロントスピーカー）

• LARGE
低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。サブウーファーが「NO」に設定されていると、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。
• SMALL
「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。フロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーから再生されます。
「SMALL」を選ぶと、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります（「NO」に設定されている場合を除く）。
サブウーファーを「NO」に設定しているときは選べません。

ご注意

• PROGRESSIVE OUT 機能は、525i の映像入力信号にのみ有効です。

ちょっと一言

• サブウーファーをつないだときは、ドルビーデジタルの低域変換機能を充分にお楽しみいただくために、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをおすすめします。

• 各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。
しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については 47 ページをご覧ください。

■CENTER SP
（センタースピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。センタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーから再生されます。
- NO
  センタースピーカーをつながない場合に選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。
- MIX
  センタースピーカーがないときに、デジタル音声を高音質で聞きたい場合におすすめします。「MIX」に設定すると、アナログダウンミックス機能が働きます。MULTI CHANNEL INPUT端子からの入力信号にも、設定は有効です。

■SURROUND SP
（サラウンドスピーカー）

サラウンドバックスピーカーも自動的に同じ設定になります。

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。
  サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。
- NO
  サラウンドスピーカーをつながない場合に選びます。

■SUR BACK SP
（サラウンドバックスピーカー）

サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーも自動的に「NO」になり、設定を変えることはできません。

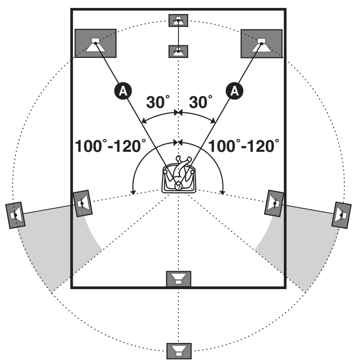
- DUAL
  サラウンドバックスピーカーを2台つないだ場合に選びます。音声を最大7.1チャンネルで出力します。
- SINGLE
  サラウンドバックスピーカーを1台だけつないだ場合に選びます。音声を最大6.1チャンネルで出力します。
- NO
  サラウンドバックスピーカーをつながない場合に選びます。
- BI-AMP
  フロントスピーカーのバイアンプ接続をするときに選びます（73ページ）。
  バイアンプ接続からサラウンドバックスピーカーの使用に変える場合は、設定を「NO」にしてからスピーカーをつなぎ直してください。

■FRONT L
（フロント左スピーカーまでの距離）

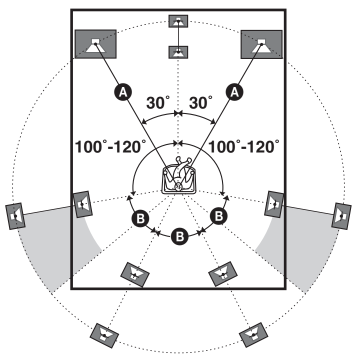
■FRONT R
（フロント右スピーカーまでの距離）

リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（Ⓐ）を設定します。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

サラウンドバックスピーカーを1つだけ設置した場合



サラウンドバックスピーカーを2つ設置した場合（Ⓑの角度は同じにする）



ご注意

「SUR BACK SP」が「BI-AMP」に設定されているときは、「CENTER SP」を「MIX」にしていても設定は無効になります。このときは、「CENTER SP」を「NO」に設定してください。

■CENTER
（センタースピーカーまでの距離）

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

■SURROUND L
（サラウンド左スピーカーまでの距離）

■SURROUND R
（サラウンド右スピーカーまでの距離）

リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。
左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SUR BACK L
（サラウンドバック左スピーカーまでの距離）

■SUR BACK R
（サラウンドバック右スピーカーまでの距離）

リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。
左右のサラウンドバックスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SUB WOOFER
（サブウーファーまでの距離）

リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。

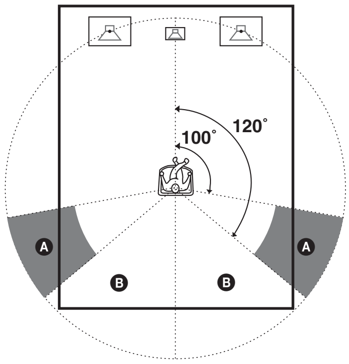
■DISTANCE UNIT
（距離の単位）

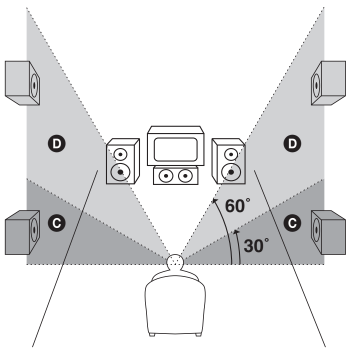
スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

- meter
  メートル表示に切り換えます。
- feet
  フィート表示に切り換えます。

■SP POSI.
（サラウンドスピーカーの位置）

シネマスタジオEXモード（60ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。
サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき（53ページ）は設定できません。



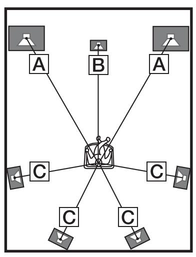


- SIDE/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒶかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/HIGH
  サラウンドスピーカの位置がⒶかつⒹの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒸの範囲にあるときに選びます。

ちょっと一言

- 自動音場補正機能でスピーカー設定すると、スピーカーの距離を1 cm単位で調節できるようになります。
- リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離 B は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも1.5 mより近くに設定できません。以下の図の A − B が 1.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、B の距離は 4.5 m 以上にしてください。
  リスニングポジションからサラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーまでの距離 C は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも 4.5 m より近くに設定できません。以下の図の A − C が 4.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、C の距離は 1.5 m 以上にしてください。
  これらは、スピーカーの配置を適切に行い、よりよい音で楽しんでいただくために設けた制限です。

使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。



- BEHD/HIGH
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒹの範囲にあるときに選びます。

■SP CROSSOVER（スピーカークロスオーバー周波数）

Speaker Settingsメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。
自動音場補正機能でスピーカーを設定しているときは、SP CROSSOVERは設定できません。Auto Calibrationメニューの「A.CAL LOAD?」を「OFF」にして、マニュアルでスピーカーを調節してから設定してください。

システムを設定する

System Settingsメニューを使って、本機の各種設定を変えることができます。
設定メニューから「System Settings」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

System Settingsメニューの設定項目

■DIMMER（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを調節できます。表示窓を全消灯すると、MULTI CHANNEL DECODINGランプも消灯します。

■SP.IMPEDANCE（スピーカーインピーダンス）

接続したスピーカーに合わせてインピーダンスを設定します。
詳しくは、「準備5：スピーカーを設定する」（31ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオ EX モード専用の設定です。
通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「SIDE」を用意しました。
ただし、リスニング環境には壁の反射も含まれるため、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「BEHD」に設定したほうがよい場合があります。
実際に設定し、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりのよいほうを選んでください。迷ったら「BEHD」に設定し、距離や音量を調節してよりよい広がり感になるようにしてください。

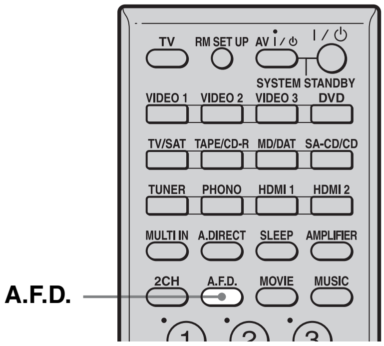
自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

詳しくは、「準備6：自動でスピーカーを設定する （自動音場補正機能）」（32ページ）をご覧ください。

ドルビーデジタルや DTS のサラウンド効果を楽しむ

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。



A.F.D. をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

詳しくは、「A.F.D.モードの種類」（58ページ）をご覧ください。
Sur Settingメニューから「A.F.D.」を選ぶこともできます。詳しくは、「サラウンド効果を調節する」（48ページ）をご覧ください。

サブウーファーを接続したときは

サブウーファーから出力される低域効果音であるL.F.E.信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」、「Neo:6 Music」では生成されません。

ご注意

- 以下の場合は機能しません。
  – MULTI IN を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 48kHz より高い信号を受信している。
  – HDMI 入力でマルチチャンネル PCM 信号を受信している。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48kHz で再生されます。

ちょっと一言

- 通常は「A.F.D. AUTO」をおすすめしますが、入力信号に応じてサラウンドバックデコーディング機能（49 ページ）を使ったほうがよい場合があります。
- DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
  – DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
  – DOLBY SURROUND DOLBY SURROUND：ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
  – DIGITAL dts SURROUND：DTS デジタルサラウンドでエンコードされているソフト
  – ドルビーデジタルや DTS について詳しくは、「用語集」（81 ページ）をご覧ください。
- マルチチャンネル信号が入力されているときは、ドルビープロロジック IIx デコーディングのみ有効です（このとき、Sur Settings メニューで設定した SB DECODING/SB DEC MODE の設定は無効になります）。ドルビープロロジック IIx 以外のデコーディングモードを選んでいるときは、エンコードされたままのマルチチャンネルの音声が出力されます。

つづく

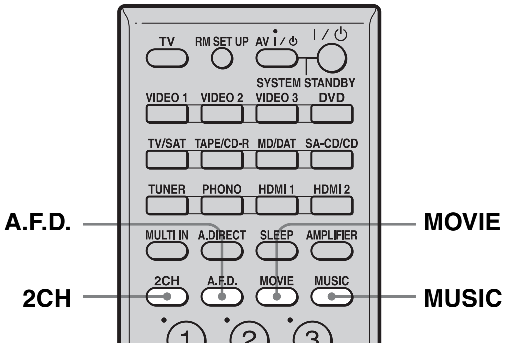
A.F.D.モードの種類

A.F.D.モード	デコード後の マルチチャンネル音声	効果
A.F.D. AUTO	（自動判別）	入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。 このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。
PRO LOGIC	4チャンネル	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4.1チャンネルにデコードして再生します。
PRO LOGIC II MOVIE	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
PRO LOGIC II MUSIC	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
PRO LOGIC II GAME	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのゲームモード処理を行います。
PRO LOGIC IIx MOVIE*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
PRO LOGIC IIx MUSIC*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
PRO LOGIC IIx GAME*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのゲームモード処理を行います。
Neo:6 Cinema	6チャンネル	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。
Neo:6 Music	6チャンネル	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。
MULTI STEREO	7チャンネル	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

* サラウンドバックスピーカーがないときは選べません。

ソニーのサラウンド効果（DCS）を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。



MOVIE をくり返し押して、映画用のサウンドフィールドを選ぶ。

MUSIC をくり返し押して、音楽用のサウンドフィールドを選ぶ。

Sur Settingsメニューから「MOVIE」または「MUSIC」を選ぶこともできます。詳しくは、「サラウンド効果を調節する」（48ページ）をご覧ください。

映画用/音楽用のサウンドフィールドを解除するには

2CHを押して、「2CH STEREO」を選びます。または、A.F.D.をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を選びます。

つづく

サウンドフィールド(DCS)の種類

	サウンドフィールド	効果
映画用	CINEMA STUDIO EX A DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。
	CINEMA STUDIO EX B DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
	CINEMA STUDIO EX C DCS	ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
	V.MULTI DIMENSION DCS	1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
音楽用	HALL	長方形のコンサートホールの音響特性を再現します。
	JAZZ CLUB	ジャズクラブの音響を再現します。
	LIVE CONCERT	300席あるライブハウスの音響を再現します。
	STADIUM	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
	SPORTS	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
	PORTABLE AUDIO	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
ヘッドホン使用時*	HEADPHONE（2CH）	2CH STEREOモード（61ページ）、またはA.F.D.モード（57ページ）でヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
	HEADPHONE THEATER DCS	映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。
	HEADPHONE（DIRECT）	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。
	HEADPHONE（MULT）	MULTI INを選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。MULTI CHANNEL INPUT端子に入力されたアナログ音声を2チャンネルにダウンミックスして出力します。

＊ヘッドホンを使用したときに選べるサウンドフィールドです。

ご注意

- 映画用と音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  – MULTI IN を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 48kHz より高い信号を受信している。
  – HDMI 入力でマルチチャンネル PCM 信号を受信している。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。
- 音楽用サウンドフィールドで Speaker Settings メニューのすべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「PORTABLE AUDIO」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。
- 音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときは、サラウンドバックデコーディング（49 ページ）は機能しません。

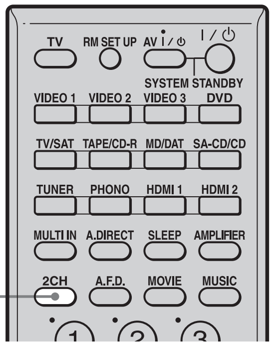
ちょっと一言

- DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS 技術を利用しています。DCS について詳しくは、「用語集」（81 ページ）をご覧ください。
- DCS マークの付いたサウンドフィールドが選ばれているとき、Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

音声を 2 チャンネルで聞く

視聴するソフトの録音や再生機器の接続、本機のサウンドフィールドの設定に関わらず、2チャンネルの音声出力に切り換えることができます。

2CH



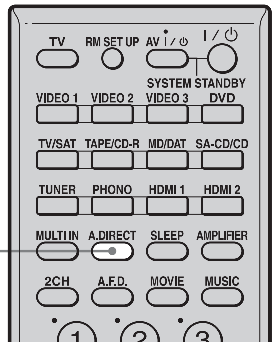
2CH をくり返し押す。

2CHを押すたびに、2CH STEREOとANALOG DIRECTが切り換わります。

- 2CH STEREO
  2チャンネルのソース（CDや、アナログオーディオ機器など）をサブウーファーなどを使わず本来の音声で聞きたい場合、フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
- ANALOG DIRECT
  選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。
  この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

2チャンネルのアナログ音声を聞く

A.DIRECT



A.DIRECTをくり返し押す。
A.DIRECTを押すたびに、ANALOG DIRECTと直前に選ばれていたサウンドフィールドの効果が切り換わります。

ノイズの少ない状態でアナログ音声を楽しむ（アナログピュアネスコントロール）

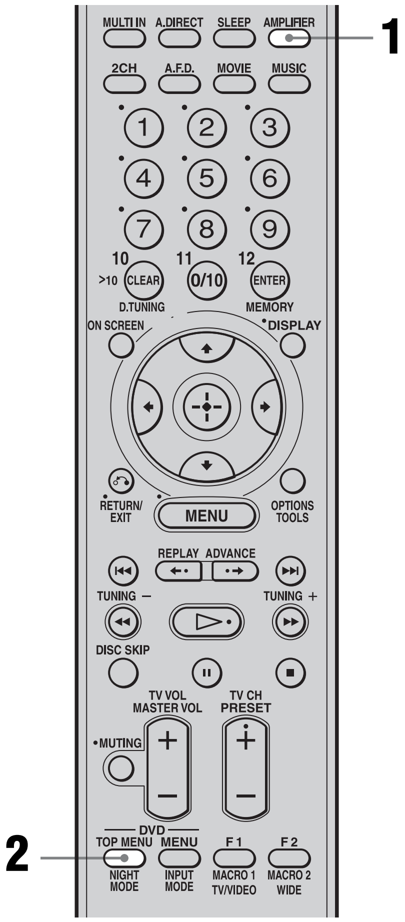
アナログ音声を出力するとき、使っていないビデオ回路とデジタル回路がパイパスされ、その電源部も停止します。ビデオ回路やデジタル回路の影響を受けない、高品位のアナログ音声をお楽しみいただけます。
アナログピュアネスコントロール機能は、音声系の入力が選ばれているときに、INPUT MODEを「ANALOG」に設定して、A.DIRECTを押すと有効になります。

ご注意
2CH STEREO モードでは、サブウーファーからは音が出ませんが、サブウーファーも使って 2 チャンネルステレオ音声を再生することもできます。A.F.D. モードを「A.F.D. AUTO」にしてください（57 ページ）。
2 チャンネル信号に対して、サブウーファーから出力される低域効果音である L.F.E. 信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。

小音量でサラウンド効果を楽しむ

（NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



1 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 NIGHT MODE を押す。

NIGHT MODE機能が働きます。
NIGHT MODEを押すたびに、オンとオフが切り換わります。

ご注意

- NIGHT MODE は、以下の場合は機能しません。
  – MULTI IN を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 96kHz より高い信号を受信している。
- DTS 96/24 信号受信中に NIGHT MODE をオンにすると、強制的に 48kHz で再生されます。

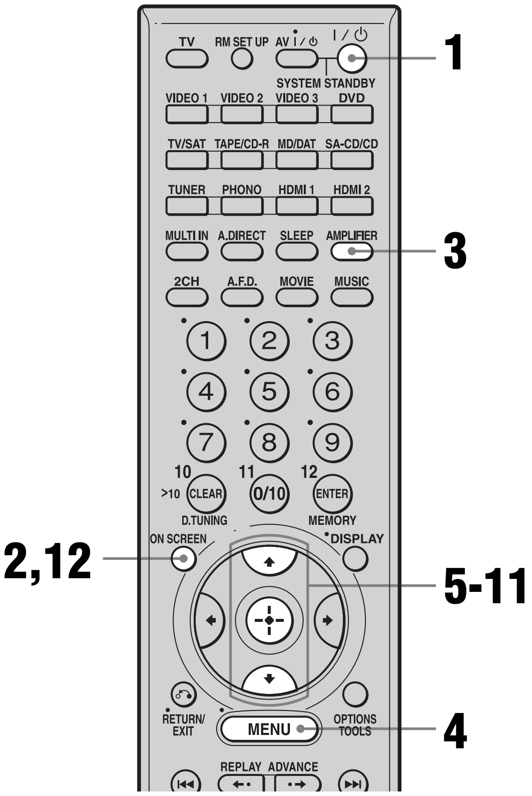
ちょっと一言

NIGHT MODE 機能を働かせると、BASS、TREBLE、EFFECT のレベルが上がり、「D.RANGE.COMP.」が「MAX」になります（47 ページ）。

スピーカーのレベルとバランスを調節する

（TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。



1 本機とテレビの電源を入れる。

2 ON SCREEN を押す。

本機に接続したテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

4 MENU を押す。

設定メニューのリストが表示されます。

5 ↑/↓ をくり返し押して、「Level Settings」を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して、「TEST TONE」を選び、⊕を押す。

7 ↑ を押す。

各スピーカーから順番にテストトーン（ザーッという音）が出力されます。

↓を押すと、選んだスピーカーのみからテストトーンを出す「FIX」パターンになります。

8 ⊕を押す。

9 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、Level Settings メニューを使って各スピーカーのレベルとバランスを調節する。

詳しくは「Level Settingsメニューの設定項目」（46ページ）をご覧ください。

10 ↑/↓ をくり返し押して、「TEST TONE」を選び、⊕を押す。

11 ↓ を押して、「OFF」を選び、⊕を押す。

テストトーンが消えます。

12 ON SCREEN を押す。

テレビの設定画面が消えます。

テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように、確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。別紙のスピーカー接続のご注意をご覧ください。

テストトーンが表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーから出るときは

スピーカーの設置位置と、接続されたスピーカー端子の種類が合っていません。スピーカーの接続をご確認ください。

ちょっと一言

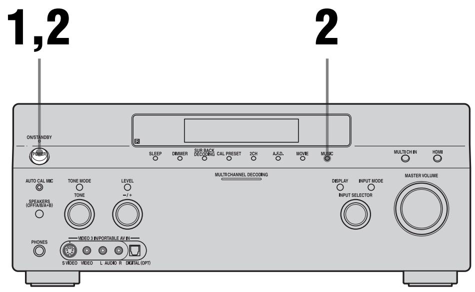
- 本機は中心周波数 800Hz のテストトーンを採用しています。
- 手順 9 ですべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンの MASTER VOL ＋ / －または本体の MASTER VOLUME つまみで調節します。
- 手順 9 でスピーカーのレベルとバランスを調整している間は、調整した値が表示窓に表示されます。

つづく

さらに細かい調節を行うには

隣り合う2個のスピーカーからテストトーンや音源を出力して、バランスやレベルを調節できます。
手順6で「PHASE NOISE」または「PHASE AUDIO」を選び、調節したい2個のスピーカーを選びます。

サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す



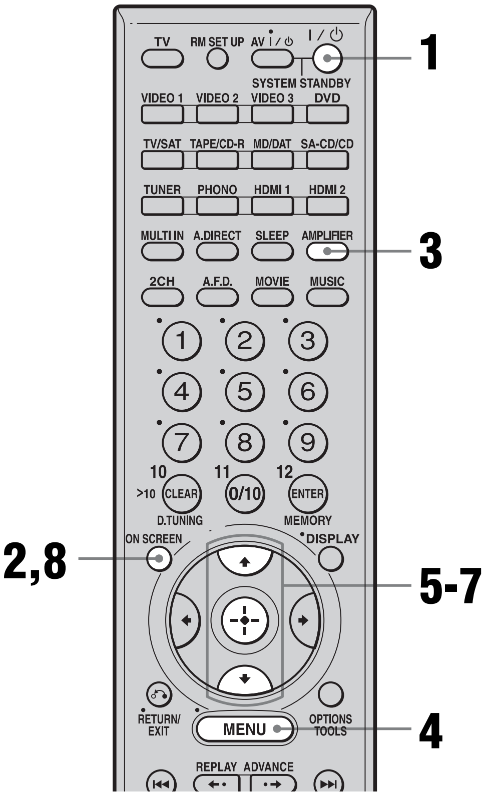
1 POWERを押して電源を切る。

2 MUSICを押しながら、POWERを押す。

表示窓に「S.F. Initialize」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

本機のメニューをテレビに表示して操作する

ON SCREENを押し、本機につないだテレビに設定画面を表示させると、より分かりやすくメニューを設定できます。



1 本機とテレビの電源を入れる。

2 ON SCREEN を押す。

本機につないだテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

4 MENU を押す。

テレビの画面には次のメニューが表示されます。
1-Level Settings
2-Equalizer Settings
3-Surround Settings
4-Audio Settings
5-Video Settings
6-Speaker Settings
7-System Settings
8-Auto Calibration

5 ↑/↓ をくり返し押して、設定したいメニューを選び、⊕を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して、設定したい項目を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押して、パラメーターを選び、⊕を押して確定する。

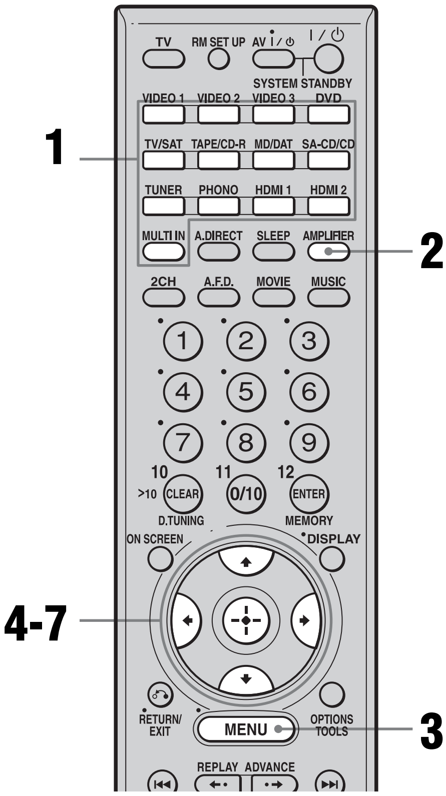
パラメーターによっては、手順8を完了すると確定されるものもあります。

8 ON SCREEN を押して終了する。

メニュー設定画面が消えます。

入力に名前を付ける

入力に8文字までの名前を付けて、本機の表示窓に表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。



1 **名前を付けたい入力の入力切り換え用のボタンを押す。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。選んだ入力が表示窓に表示されます。
HDMI IN1または2端子につないだ機器を選ぶときは、HDMIをくり返し押します。

2 **AMPLIFIER を押す。**

本機の操作ができるようになります。

3 **MENU を押す。**

設定メニューのリストが表示されます。

4 **↑/↓ をくり返し押して、「Audio Settings」、「Video Settings」または「Auto Calibration」を選ぶ。**

5 **⊕を押してメニューを表示する。**

6 **↑/↓ をくり返し押して、「NAME IN?」または「A.CAL NAME?」を選び、⊕を押す。**

カーソルが点滅し、文字が選べるようになります。↑/↓で文字を選び、←/→で入力する位置を選びます。

スペースを入れるには

文字を入力せずに ←/→を押します。入力した文字をスペースに変更したい場合は、表示窓にスペースが表示されるまで本体の＋/－つまみを回します。

間違えて入力したときは

←/→を押して変更したい文字を点滅させ、本体の＋/－つまみを回して、正しい文字を選びます。

7 **⊕を押す。**

名前が確定します。

ちょっと一言

手順 6 で、↑/↓ を押して文字の種類を選ぶことができます。
アルファベット（大文字）→ アルファベット（小文字）→ 数字 → 記号

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。
例：スーパーオーディオCDプレーヤーで、デジタル音声でCDを聞いたり、アナログ音声でスーパーオーディオCDを聞く場合、どちらかに固定したり、切り換えることができます。



1 入力切り換え用のボタンを押す。
または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 AMPLIFIER を押す。
本機の操作ができるようになります。

3 INPUT MODE をくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。
表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

音声入力モード

- AUTO
  デジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
- COAX
  DIGITAL COAXIAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- OPT
  DIGITAL OPTICAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- ANALOG
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

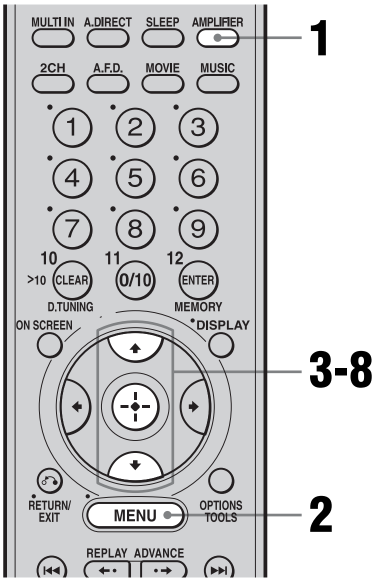
ご注意
- DIGITAL ASSIGN 機能（68 ページ）で他の入力に割り当てているデジタル音声入力は選ぶことができません。
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- HDMI 入力を選んでいるときは、手順 3 で「------」と表示され、他の項目は選べません。HDMI 以外の入力を選んでください。
- アナログダイレクト機能を使っているときや MULTI CHANNEL 入力を選んでいるときは、音声入力モードは「ANALOG」に設定されます。他のモードは選べません。

選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる

OPTICALやCOAXIALのデジタル音声入力端子を持っている入力 （VIDEO 1 IN、DVD IN、TV/SAT IN、MD/DAT IN、SA-CD/CD INなど）を使っていないときに、他の入力（VIDEO 2など）に割り当てることができます。

例：DVDプレーヤーを本機のOPTICAL IN端子につないで、デジタル音声入力のソースにする場合

- DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL VIDEO 2端子につなぎます。
- DIGITAL ASSIGNの設定で「VIDEO 2 OPT」を「DVD」に割り当てます。



1 AMPLIFIER を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。

設定メニューのリストが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Audio Settings」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「DIGITAL ASSIGN?」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して、空いているデジタル音声入力（上記の例では「VIDEO 2 OPT」）を選ぶ。

6 ⊕を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押して、手順 5 で選んだデジタル音声入力を割り当てたい入力（上記の例では「DVD」）を選ぶ。

8 ⊕を押す。

これで入力を「DVD」に切り換えると、DVDプレーヤーの音声はOPTICAL VIDEO 2 IN端子を通してデジタル音声になります。

割り当てができる入力は、以下の「デジタル音声入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

デジタル音声入力に割り当てできる入力

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

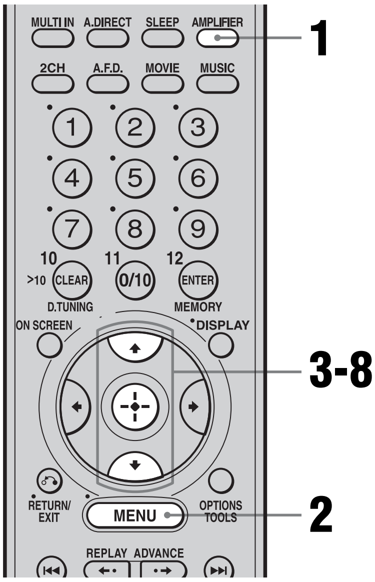
デジタル音声入力	割り当てできる入力
VIDEO 1 OPT	VIDEO 1、DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD、TUNER
VIDEO 2 OPT	VIDEO 2、DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD、TUNER
VIDEO 3 OPT	VIDEO 3、DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD、TUNER
TA/SAT OPT	TV/SAT、DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD、TUNER
MD/DAT OPT	MD/DAT、DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD、TUNER
DVD COAX	DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TV/SAT、MD/DAT、TUNER
TAPE/CD-R COAX	TAPE/CD-R、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TV/SAT、MD/DAT、TUNER
SA-CD/CD COAX	SA-CD/CD、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TV/SAT、MD/DAT、TUNER

ご注意

- 同じ入力に複数のデジタル音声を同時に割り当てることはできません。
- 入力ソースからのオプティカル信号を本機の OPTICAL IN 端子に割り当てることはできません。また、入力ソースからの同軸信号を本機の COAXIAL IN 端子に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE（67 ページ）の設定が変わることがあります。

選んだ入力にHDMI端子を割り当てる

HDMI映像を、他の入力を選んだときも楽しむことができます。
例：SA-CD/CDの入力を選んだときに、SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCDの音を聞きながら、HDMI映像を楽しむことができます。



1 **AMPLIFIERを押す。**
本機の操作ができるようになります。

2 **MENUを押す。**
設定メニューのリストが表示されます。

3 **↑/↓をくり返し押して、「Video Settings」を選び、⊕を押す。**

4 **↑/↓をくり返し押して、「HDMI VIDEO ASSIGN?」を選び、⊕を押す。**

5 **↑/↓をくり返し押して、割り当てるHDMI映像を選ぶ。**

6 **⊕を押す。**

7 **↑/↓をくり返し押して、手順5で選んだHDMI映像を割り当てたい入力を選ぶ。**

8 **⊕を押す。**
割り当てができる入力は、以下の「HDMI映像入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

HDMI映像入力に割り当てできる入力

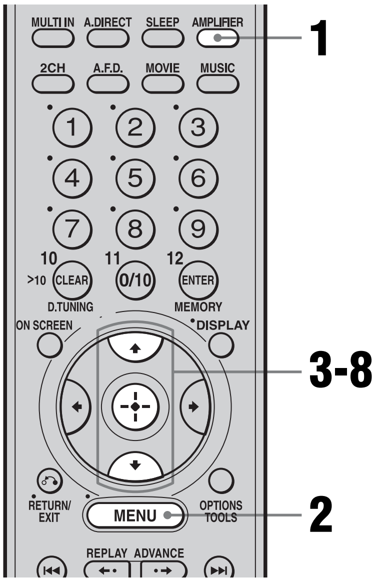
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

HDMI映像入力	割り当てできる入力
HDMI 1	NONE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD、TV/SAT、TAPE/CD-R、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
HDMI 2	NONE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD、TV/SAT、TAPE/CD-R、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

ご注意
同じ入力に「HDMI 1」と「HDMI 2」を同時に割り当てることはできません。

選んだ入力にコンポーネント映像端子を割り当てる

コンポーネント映像を、他の入力（VIDEO 2 INなど）を選んだときも楽しむことができます。
例：SA-CD/CDを選んだときに、SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCDの音を聞きながら、コンポーネント映像を楽しむことができます。



1 AMPLIFIER を押す。
本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。
設定メニューのリストが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Video Settings」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して、「COMPONENT V. ASSIGN?」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して、割り当てるコンポーネント映像（上記の例では「DVD」）を選ぶ。

6 ⊕を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押して、手順 5 で選んだコンポーネント映像を割り当てたい入力（上記の例では「SA-CD/CD」）を選ぶ。

8 ⊕を押す。
これで入力を「SA-CD/CD」に切り換えると、DVDプレーヤーの映像がコンポーネント映像になります。
割り当てができる入力は、以下の「コンポーネント映像入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

コンポーネント映像入力に割り当てできる入力

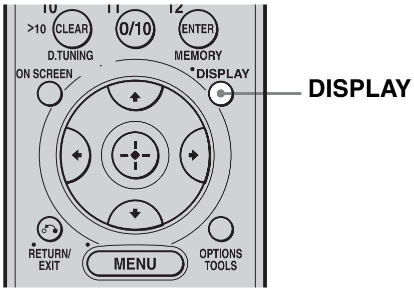
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

コンポーネント映像入力	割り当てできる入力
VIDEO 1	NONE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TAPE/CD-R、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
DVD	NONE、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD、TAPE/CD-R、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
TV/SAT	NONE、VIDEO 2、VIDEO 3、TV/SAT、TAPE/CD-R、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

ご注意
- 同じ入力に 1 つ以上のコンポーネント映像を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたコンポーネント映像は、もとの入力で使うことはできません。

表示窓の表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドの情報などを確認できます。



DISPLAY をくり返し押す。

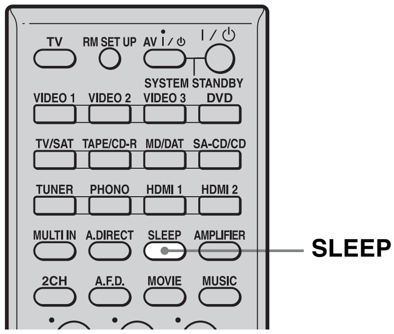
DISPLAYを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

→登録した名前* → 入力端子名 → サウンドフィールド名 → ボリューム →（登録した名前*に戻る）

＊入力に名前を付けているときのみ表示されます。
すべてスペースが入力されていたり、入力名と同じ名前が付けられている場合は名前は表示されません。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



SLEEP をくり返し押す。

または本体のSLEEPをくり返し押します。
SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

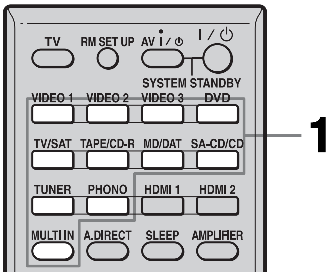
→2：00：00→1：30：00→1：00：00→0：30：00→OFF→（2：00：00に戻る）

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。
もう一度 SLEEP を押すと、スリープタイマーの設定が変わります。

他機を使って録音/録画する

本機を使ってオーディオ/映像機器から録音/録画ができます。お手持ちの録音/録画機器の取扱説明書もご覧ください。



カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのカセットデッキまたはMDデッキの取扱説明書もご覧ください。

1 再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 再生機器を準備する。

例：CDプレーヤーにCDを入れる。

3 録音機器を準備する。

カセットテープまたはミニディスクを入れ、録音レベルを調節する。

4 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。

デジタル音声を録音するには

再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子につなぎ、録音機器をOPTICAL MD/DAT OUT端子につないでください。

録画する

1 再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 再生機器の準備をする。

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 録画機器の準備をする。

（VIDEO 1またはVIDEO 2につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

4 録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。

ご注意

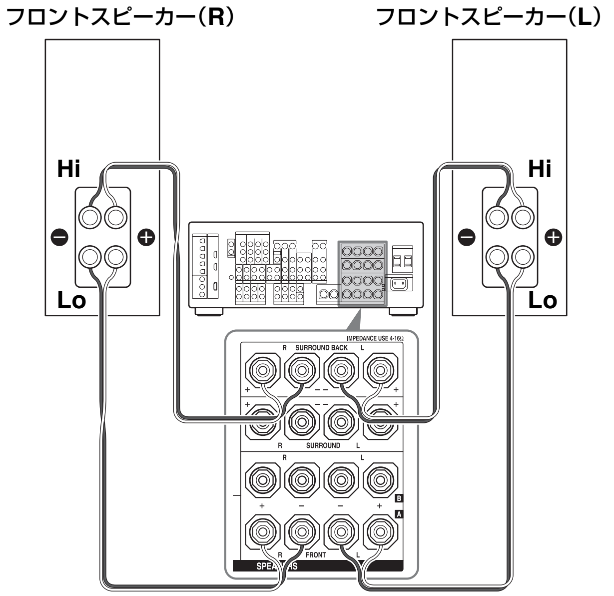
- TAPE/CD-R OUT 端子または MD/DAT OUT 端子から出力される信号に対して、音の調節は効きません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、FRONT の L/R 音声のみ出力されます。
- 録画防止機能のあるソースは録画できません。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK SPEAKERS端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する

フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT SPEAKERS A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK SPEAKERS端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ず外してください。本機の故障の原因となります。



設定する

Speaker Settingsメニューの「SUR BACK SP」を「BI-AMP」に設定してください（53ページ）。「BI-AMP」に設定することで、FRONT SPEAKERS A端子と同じ信号がSURROUND BACK SPEAKERS 端子からも出力されるようになります。

ご注意

- FRONT SPEAKERS B 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、EQ などの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号はスピーカー端子と同じ設定になります。
- Speaker Settings メニューの「SUR BACK SP」が「BI-AMP」に設定されているときは、MULTI CHANNEL INPUT 端子の CENTER の音声はフロントスピーカー（L/R）からは出力されません。

本機のリモコンで他機を操作する

お使いの機器に合わせて本機を設定すると、下表の●のついたボタンを使ってそれぞれの機器を操作できます。ただし、機器によってはボタンを押しても操作できないことがあります。
設定のしかたは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（75ページ）をご覧ください。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

選ばれている機器 ボタン	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー	ブルーレイディスクプレーヤー	PSX	ビデオCDプレーヤー/LDプレーヤー	衛星放送チューナー	BSデジタル/デジタルCSチューナー	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	CDプレーヤー/MDデッキ	チューナー	アンプ
AV I/⏻、I/⏻（TVを押したあとに押す）	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
MEMORY、ENTER	●	●	●	●	●	●*		●	●	●	●	●	
CLEAR、>10、D.TUNING	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	
DISPLAY	●	●	●	●	●	●		●			●	●	●
OPTIONS/TOOLS	●		●					●					●
RETURN/EXIT	●		●	●	●	●	●	●					●
▲/▼/◀/▶、⊕	●	●	●	●	●		●	●					●
MENU	●	●	●	●	●		●	●					●
I◀◀/▶▶I		●	●	●	●	●			●**	●	●		
REPLAY/ADVANCE、◀·/·▶			●	●									
◀◀/▶▶、TUNING +/–		●	●	●	●	●			●	●	●	●	
▷、II、■		●	●	●	●	●			●	●	●		
DISK SKIP			●	●		●					●		
MUTING、MASTER VOL +/–、TV VOL +/–	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
PRESET +/–、TV CH +/–	●	●	●	●		●*	●					●	
DVD TOP MENU/NIGHT MODE、DVD MENU/INPUT MODE			●	●	●								●
F1、MACRO1、TV/VIDEO	●		●	●									●
F2、MACRO2、WIDE	●		●	●									●

＊LD プレーヤーのみ操作できます。
＊＊デッキ B のみ操作できます。

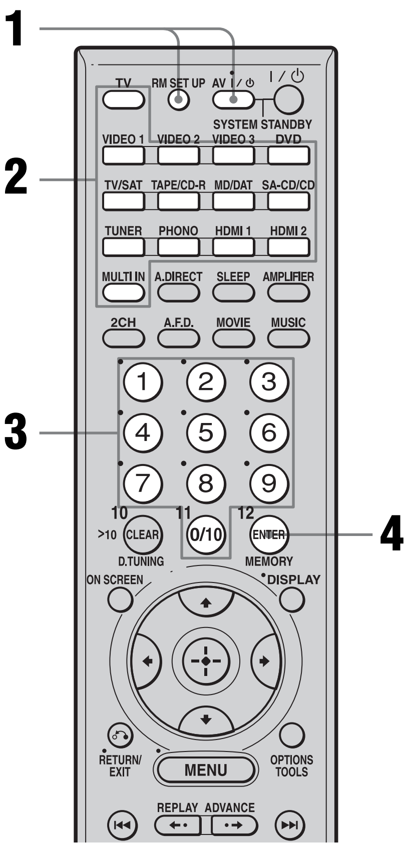
ご注意
DVD レコーダーのコードは、ソニー製 DVD レコーダーに設定されています。ソニー製 DVD プレーヤーを操作するには、コードを変更する必要があります。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（75 ページ）をご覧ください。

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する

このリモコンで、他社製のCDプレーヤーやMDデッキなどの機器を操作するように設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器も操作できます。
例：本体後面のVIDEO 2端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき
設定の前に、以下についてご注意ください。

- PHONOの設定は変更できません。
- このリモコンで操作できるのは、赤外線コントロールを受け付ける機器のみです。

以下の操作をするときは、本機の電源を入れ、リモコンをリモコン受光部に向けてください。



1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。

RM SET UPが点滅します。

2 RM SET UP が点滅している間に、入力切り換え用のボタン（TV を含む）を押して設定したい入力を選ぶ。

たとえば、CDプレーヤーを操作したいときは、SA-CD/CDを選びます。
RM SET UPと入力切り換え用のボタンが点滅します。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの１つ を入力する）。

RM SET UPと入力切り換え用のボタンが点滅します。

4 ENTER を押す。

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回点滅し、設定モードが終了します。
入力切り換え用のボタンも消灯します。

設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、RM SET UPを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように 設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、一つの機器 に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコ ードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

ご注意

- テレビの対応コードでは、500 番台の番号のみ有効です。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

つづく

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、755、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
PANASONIC	406、408
PHILIPS	407
PIONEER	409
TOSHIBA	404
DENON	405

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	403

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
DAEWOO	504、505、506、515、544
FISHER	508
GOLDSTAR/LG	503、511、512、515、534、544
GRUNDIG	517、534
HITACHI	513、514、515、544
ITT/NOKIA	521、522
JVC	516
MAGNAVOX	503、518、544
MITSUBISHI/MGA	503、519、544
NEC	503、520、544
PANASONIC	509、524
PHILIPS	515、518
PIONEER	509、525、526、540
RCA/PROSCAN	510、527、528、529、544

メーカー	コード
SAMSUNG	503、515、531、532、533、534、544
SANYO	508、545、546、547
SHARP	535
TELEFUNKEN	523、536、537、538
THOMSON	530、537、539
TOSHIBA	535、540、541
ZENITH	542、543

BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804
JERROLD/G.I.	806、807、808、809、810、811、812、813、814
PANASONIC	818
RCA	805、819
S.ATLANTA	815、816、817

チューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	002、003、004、005

ブルーレイディスクプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312

PSXの対応コード

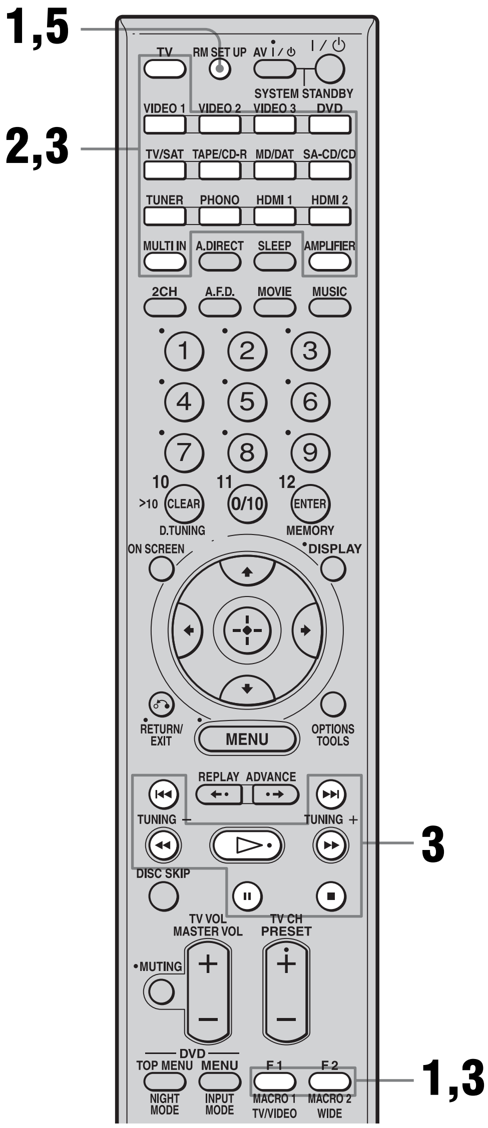
メーカー	コード
SONY	313、314、315

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ機能を使って、いくつかのリモコンコードをまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO1、2）。1つのマクロ操作には、20個までリモコンコードを登録することができます。

操作の実行順を登録する



1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。

つづく

RM SET UPが2回点滅します。

2 **入力切り換え用のボタンを押して、操作を割り当てたい入力を選ぶ。**
選んだ入力のボタンが点灯します。

3 **行いたい操作のボタンを押して、機能を学習させる。**

押すボタン	登録される操作
▷、■、❚❚、▶▶、◀◀、▶▶❙、❙◀◀	ボタンの操作を行います。
入力切り換え用のボタンを１秒以上押す	入力を切り換えます。
MACRO 1または MACRO 2	1秒の待機時間を設定します。より長い待機時間を設定するには、MACRO 1またはMACRO 2をくり返し押します。

手順2で選んだ入力のボタンが2回点滅し、再び点灯します。

4 **手順 2 と 3 をくり返す。**
同じ機器に別のコマンドを割り当てたいときは、手順3を繰り返します。

5 **RM SET UP を押して、登録を終了する。**

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。
それまでに登録したコマンドは有効です。

マクロ機能を使うには

1 AMPLIFIER を押す。
AMPLIFIER が点灯し、消灯します。

2 MACRO 1またはMACRO 2を押してマクロを実行する。
マクロ操作が開始され、登録した順にコマンドが実行されます。
コマンドが送信されている間は、RM SET UPが点滅し、AMPLIFIERが点灯します。送信が終了すると、RM SET UPとAMPLIFIERは消灯します。

登録したマクロを消すには

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。
RM SET UP が 2 回点滅します。

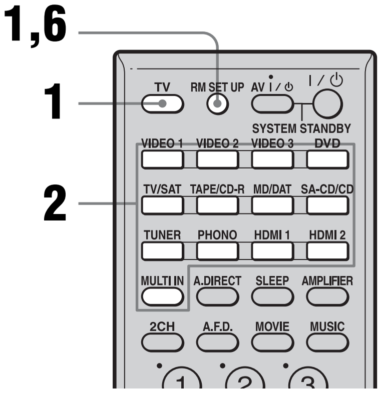
2 RM SET UPを押す。
マクロとして登録された設定が消去されます。

ご注意
マクロ操作を登録するときは、リモコンの電池は新しいものを使ってください。

ちょっと一言
手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンにもともと入っていないリモコンコードを学習させることができます。



例 ：ボタン1をリモコンのVIDEO 1に割り当てる場合

1 RM SET UP を押しながら、TV を押す。

RM SET UPが点灯します。

2 入力切り換え用のボタン（例では VIDEO 1）を押して、設定したい入力を選ぶ。

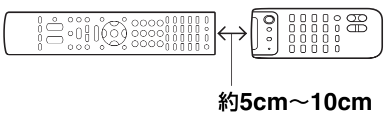
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 VIDEO 1 として使いたいボタンを押す（例では 1 ボタン）。

手順2で選んだ入力のボタンが点灯します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

4 本機のリモコンのリモコンコード受光部と、学習する機器のリモコンの受信 / 送信部とを向かい合わせる。

学習する機器のリモコンがコードを受信すると、手順2で選んだ入力ボタンが消灯します。



5 RM SET UP が 2 回点滅し、学習が完了する。

学習に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

6 RM SET UP を押して、学習機能を終了する。

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。
また、手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。

学習させたリモコンコードを使うには

学習させたボタンがある入力を選び、学習させたボタンを押します。

学習したリモコンコードを消すときは

1 RM SET UP を押しながら、TV を押す。

2 入力切り換え用のボタン（例ではVIDEO 1）を押して、設定を消去したい入力を選ぶ。
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 I/⏻を1秒以上押す。
選んだ入力のボタンが2回の点滅をくり返します。

4 学習させたボタンを押して、登録した設定を消去する。
消去が完了すると、RM SET UPが2回点滅します。
消去に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

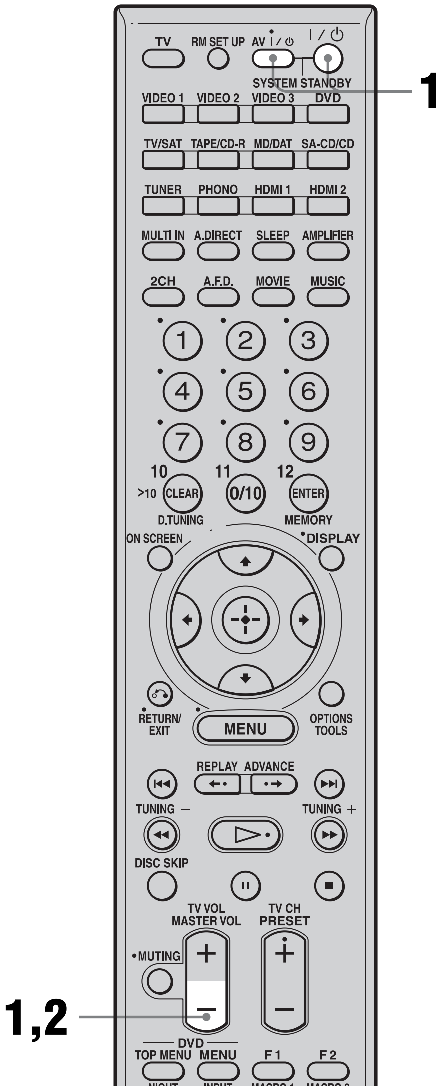
ご注意

学習機能を設定するときは、リモコンの電池は新しいものを使ってください。

ちょっと一言

- 容量が一杯になったときは、RM SET UP が 10 回点滅したあとに学習モードから抜けます。
- 手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものと交換してください。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



1 MASTER VOL −を押したまま、I/⏻ と AV I/⏻ を押す。

RM SET UPが3回点滅します。

2 MASTER VOL −を離す。

リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

用語集

■AAC
デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

■Component（コンポーネント）映像
映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

■Composite（コンポジット）映像
映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

■Digital Cinema Sound（DCS）
映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■Dolby Digital
ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。その1つである5.1チャンネルドルビーチャンネルはフロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■Dolby Digital Surround EX
ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。サラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■Dolby Pro Logic II
2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードの2種類があります。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

■Dolby Pro Logic IIx
7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1chドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

■Dolby Surround（Dolby Pro Logic）
ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。DVDビデオでは最も一般的な音声処理方法です。

■DTS 96/24
高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビットで音を記録します。ソフトにより、再生チャンネル数は異なります。

■DTS Neo: 6
2chステレオで記録された音声を6.1chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■DTSサラウンド
Digital Theater Systems社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■DTS-ES
サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■Dynamic Range
音声信号の再現能力を示した数値です。最小値（小さい音）と最大値（大きい音）の差を指し、単位はdB（デシベル）で表示します。この数値が大きいほど、小さい音から大きい音まで再現できます。

つづく

■HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

■L.F.E.（Low Frequency Effect）

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20Hz～120Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

■Sビデオ信号

映像信号を輝度Yと色Cの2系統で伝送する方式です。コンポジットと比べてより美しい映像で記録・再生します。

■TSP（Time Stretched Pulse）信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■インターレス

テレビやモニターの管面にある走査線のうち、まず奇数番目の走査線を1/60秒かけて描き、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線を描いて画面を映し、合わせて1枚の完全な画面を作っていく飛び越し走査のことです。

■クロスオーバー周波数

各スピーカーユニットがカバーする周波数帯域が交差するポイントの周波数です。

■サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

■シネマスタジオEX

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類によりA/B/Cの3つのモードを選べます。

■ダウンミックス

5.1チャンネルなどのマルチチャンネル音声を、2チャンネルなどに振り分けて出力することです。

■プログレッシブ

インターレス（インターレスの項目を参照）方式ではなく、すべての走査線を順番通りに描いていく順次走査のことです。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。 → 本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）が「OFF」になっていないか確認する（32ページ）。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で正しい入力が選ばれているか確認する。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODEが働いていないか確認する（62ページ）。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。 → モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。ただし、サウンドフィールド（PRO LOGICなど）を選ぶとセンタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってデジタル入力固定（COAX、OPT）を選んでいないか確認する（67ページ）。 → 入力にMULTI INを選んでいないか確認する。 → 選んだ入力に、DIGITAL ASSIGN機能を使ってデジタル音声入力を割り当てていないか確認する（68ページ）。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってアナログ入力固定（ANALOG）を選んでいないか確認する（67ページ）。またはOPTICAL入力時に「COAX」を選んでいないか、逆にCOAXIAL入力時に「OPT」を選んでいないか確認する。 → 入力にMULTI INを選んでいないか確認する。 → アナログダイレクト機能を使っていないか確認する。 → 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（68ページ）。
HDMIに入力しているソースの音がアンプまたは本機に接続したテレビからでない	→ HDMI接続を確認してください。 → ON SCREENを表示しているときは音がでません。ON SCREENの表示を「OFF」にしてください。 → HDMI接続では、スーパーオーディオCDは聞けません。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → Level Settingsメニューにあるバランスパラメーターを調節する。

症状	原因と対応のしかた
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しく接続されているか確認する（レコードプレーヤーを接続している場合のみ）。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センター /サラウンド/サラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ シネマスタジオEXモードを選ぶ（60ページ）。 ➔ スピーカーの音量を調節する（63ページ）。 ➔ センタースピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（52ページ）。 ➔ サラウンドバックスピーカーが「DUAL」または「SINGLE」に正しく設定されているか確認する（52ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	➔ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、サラウンドバックデコーディングモードを「ON」に設定してください（49ページ）。
サブウーファーの音が出ない	➔ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。 ➔ スピーカーの電源が入っているか確認する。 ➔ すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIEまたはMUSICを押す）。 ➔ サンプリング周波数48 kHzを超える信号が入力されているときは、サウンドフィールドは働きません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	➔ 各機器が正しく接続されているか確認する（15、17ページ）。 ➔ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で録音したい機器を選ぶ（38ページ）。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	➔ 再生機器をデジタル接続し、アンプ側でその入力を選んでいるか確認する。 ➔ 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 ➔ 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 ➔ 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（68ページ）。

つづく

映像

症状	原因と対応のしかた
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	➔ 適切な入力を選ぶ（38ページ）。 ➔ テレビの入力モードを確認する。 ➔ テレビをオーディオ機器から離す。 ➔ コンポーネント映像入力の割り当てを正しく設定する（70ページ）。 ➔ 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（26ページ）。
コンポーネント入力の画像が乱れる	➔ コンポーネント映像端子から出力している場合は、「PROGRESSIVE OUT」の設定が「ON」になっていると525p以上の信号の入力信号は出力されません。設定を「OFF」にしてください。 ➔ S VIDEO端子、VIDEO端子から出力している場合は、525p以上のコンポーネント映像の入力は受け付けられません。525iコンポーネント映像を入力してください。 ➔ 525p以上のコンポーネント入力信号を出力する場合は、出力するビデオ端子をコンポーネントにして、「PROGRESSIVE OUT」の設定を「OFF」にしてください。
HDMIに入力しているソースの映像がアンプまたは、本機に接続したテレビから出ない	➔ ケーブルの接続を確認してください。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。
録画ができない	➔ 各機器が正しく接続されているか確認する（18ページ）。 ➔ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で録画したい機器を選ぶ（38ページ）。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（30ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	スピーカー出力に異常な電流が流れています。または天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、再度電源を入れてください。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	29ページ
調節したサウンドフィールド	64ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA3200ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
120 W＋120 W

周波数特性

10 Hz～100 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

MULTI CHANNEL INPUT、SA-CD/CD、TAPE/CD-R、MD/DAT、DVD、TV/SAT、VIDEO 1、2、3、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

入力（デジタル）

DVD、TAPE/CD-R、SA-CD/CD（COAXIAL）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
TV/SAT、MD/DAT、VIDEO 1、2、3（OPTICAL）：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力

TAPE、MD/DAT（REC OUT）、VIDEO 1、2（AUDIO OUT）：
出力電圧：170 mV
出力インピーダンス：1 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、SUB WOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

ビデオ部

入力/出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
S VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度/出力電圧：1 Vp-p
入力/出力インピーダンス：75 Ω
クロマ（C）
入力感度/出力電圧：0.286 Vp-p
入力/出力インピーダンス：75 Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度/出力電圧：1 Vp-p
入力/出力インピーダンス：75 Ω
P_B/C_B、P_R/C_R
入力感度/出力電圧：0.7 Vp-p
入力/出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力/出力

タイプA（19ピン）HDMI

電源、その他

電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	400 W スタンバイ時：1 W
最大外形寸法	430 × 175 × 430 mm （幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）
質量	約 15.5 kg
付属品	電源コード（1） キャリブレーションマイクロフォン：ECM-AC2（1） 取扱説明書（本書）（1） 接続・設定ガイド（1） リモートコマンダー：RM-AAL007（1） RM-AAL007用単3形マンガン乾電池（2） ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1） 保証書（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

索引

わ行

A-Z

数字

記号

その他